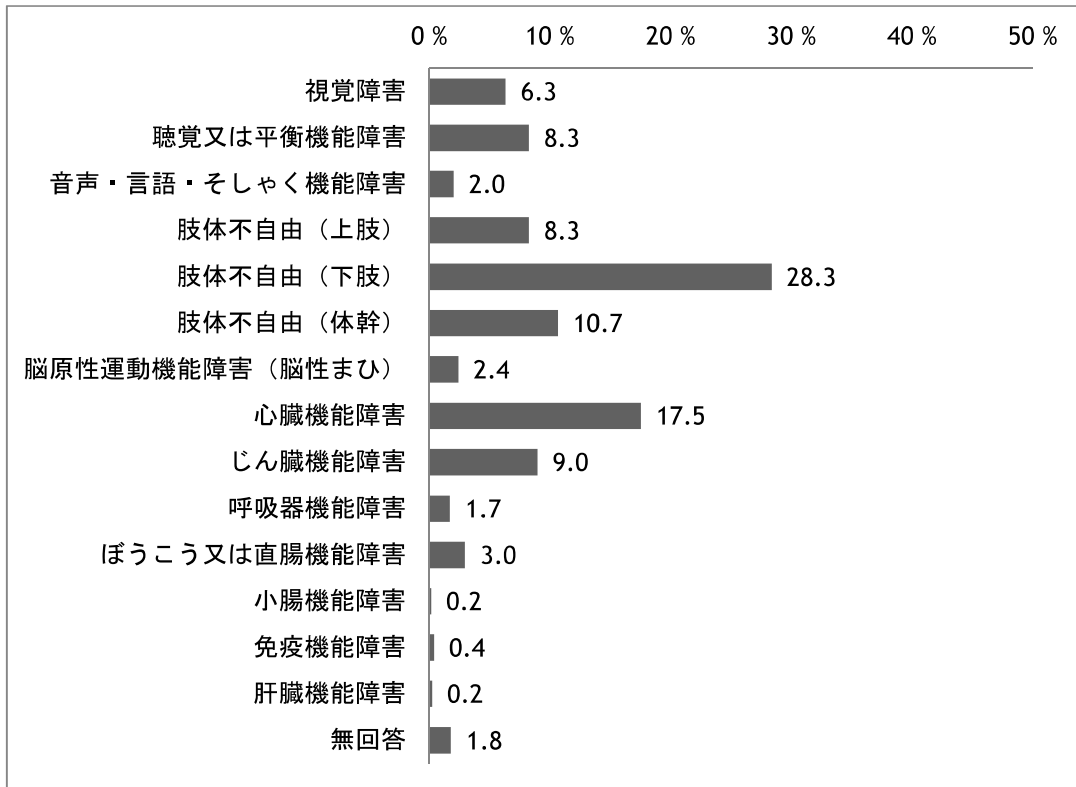


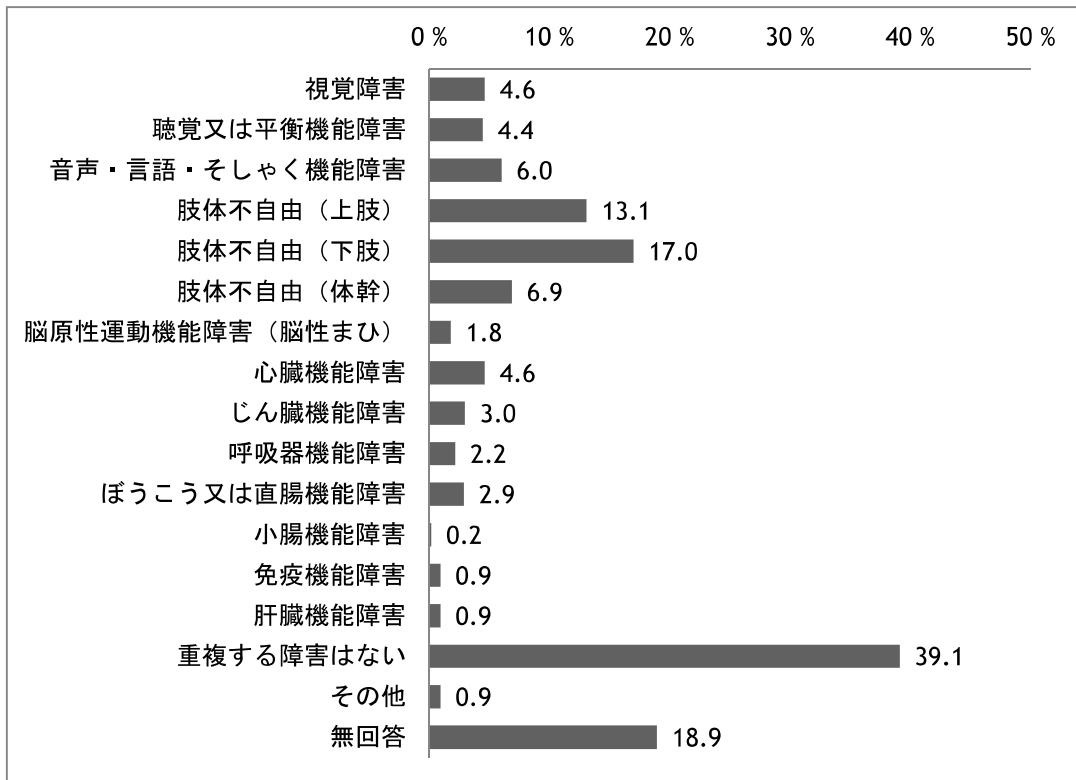
【主な身体障害の種類】

(n=1284)



【重複する身体障害の種類】

〈複数回答〉 (n=1284)



【重複する身体障害の種類（他障害との重複）】

(人)

		重複する身体障害の内容													
		視覚障害	聴覚又は平衡機能障害	音声・言語・そしやく機能障害	肢体不自由（上肢）	肢体不自由（下肢）	肢体不自由（体幹）	脳原性運動機能障害（脳性まひ）	心臓機能障害	じん臓機能障害	呼吸器機能障害	ぼうこう又は直腸機能障害	小腸機能障害	免疫機能障害	肝臓機能障害
調査票の障害種別	身体障害 (n=544)	59	57	77	168	218	88	23	59	38	28	37	2	12	12
	知的障害 (n=120)	8	9	13	10	27	24	7	2	0	0	1	0	0	0
	障害児 (n=76)	12	16	15	20	26	36	17	14	1	0	1	0	0	0
	難病 (n=56)	7	0	1	1	2	6	0	1	28	1	3	3	0	0

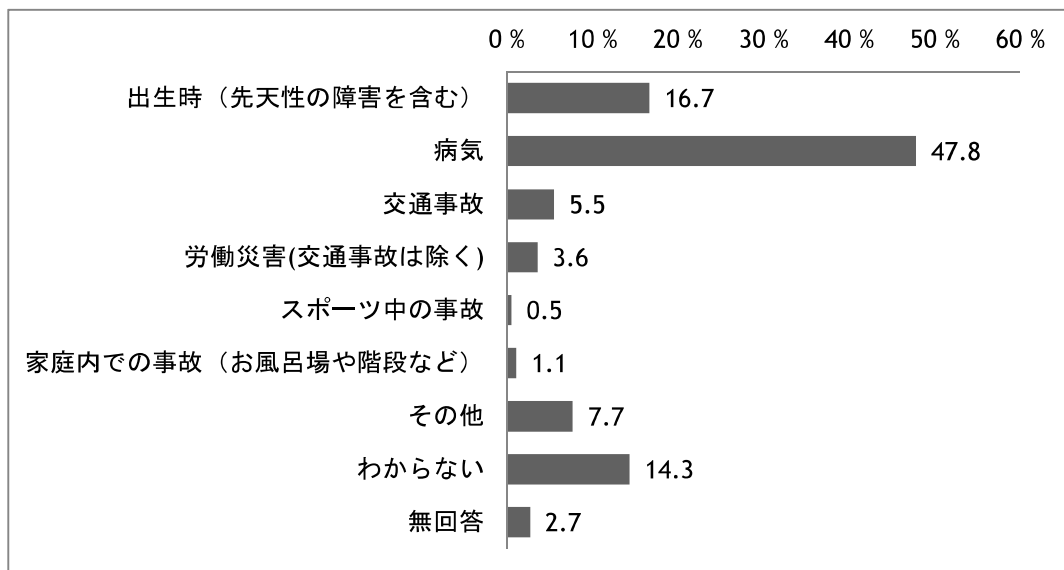
備考1) 「その他」「わからない」「無回答」は省略。

備考2) 「障害児」には、身体障害が重複する場合の障害内容も加えている。

備考3) 表示は実数（人）

【主な身体障害の要因】

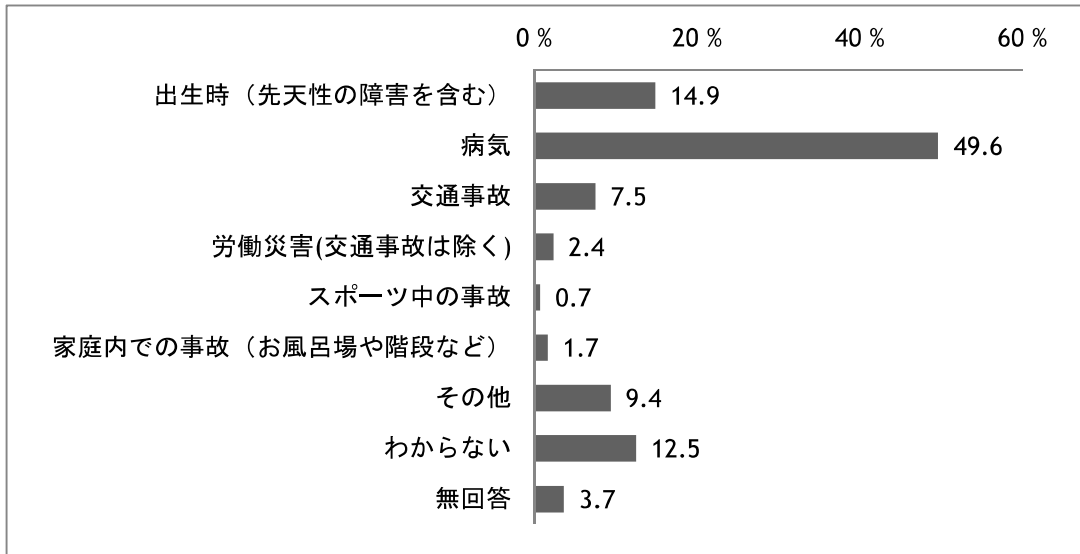
(n=1284)



「その他」の具体例 ■転倒などの事故 ■加齢 ■遺伝 ■原因不明

【重複する身体障害の要因】

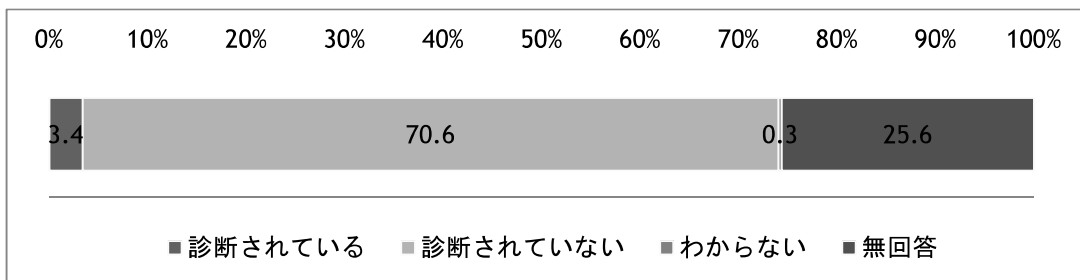
〈複数回答〉(n=544)



「その他」の具体例 ■ 転倒などの事故 ■ 加齢 ■ 原因不明

【高次脳機能障害の診断の有無】

(n=1284)

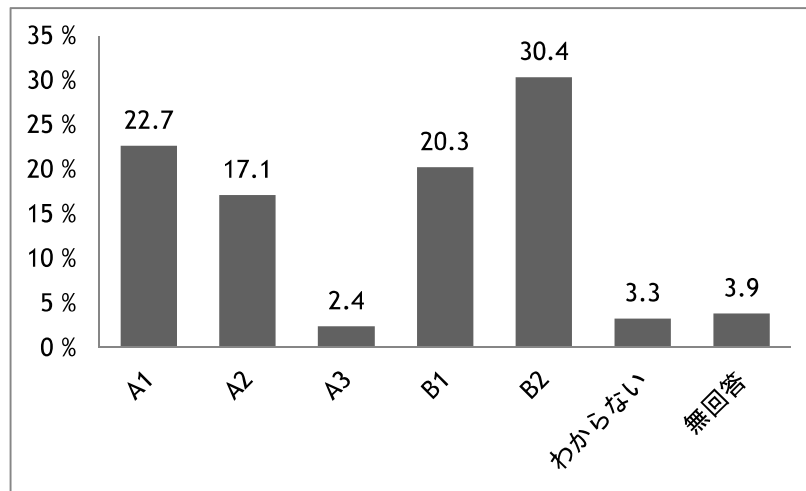


②知的障害者

知的障害者については、療育手帳の等級がB2の人が30.4%で最も多く、「知的な遅れ」と診断されている人が66.3%であった。発達障害と重複している場合、障害の程度が重度である傾向がみられた。

【療育手帳等級】

(n=543)

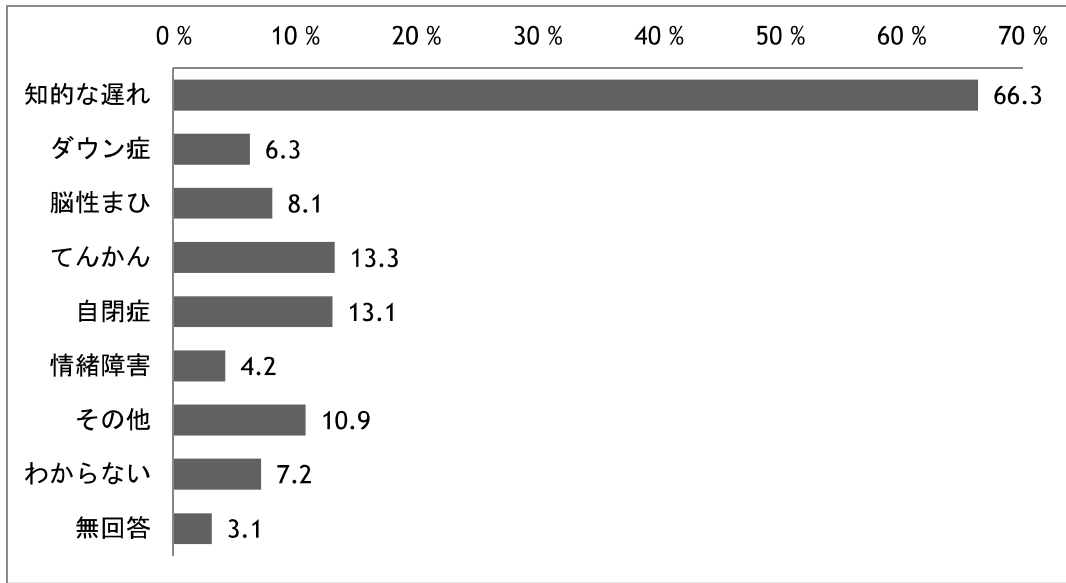


【療育手帳等級（他の障害が重複している場合）】

	等級	重度 ← ← ← → → → 軽度					わからない	無回答
		A 1	A 2	A 3	B 1	B 2		
調査票の障害種別	身体障害 (n=114)	46 (40.4%)	25 (21.9%)	10 (8.8%)	6 (5.3%)	10 (8.8%)	17 (14.9%)	0.0 (0.0%)
	精神障害 (n=57)	3 (5.3%)	3 (5.3%)	1 (1.8%)	23 (40.4%)	25 (43.9%)	0.0 (0.0%)	2 (3.5%)
	障害児 (n=190)	30 (15.8%)	19 (10.0%)	3 (1.6%)	32 (16.8%)	104 (54.7%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
	発達障害 (n=47)	16 (34.0%)	13 (27.7%)	0 (0.0%)	9 (19.1%)	9 (19.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	難病 (n=1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

【診断名】

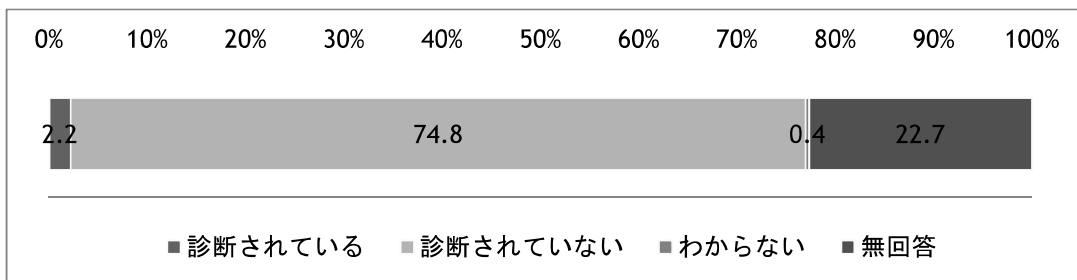
〈複数回答〉(n=543)



「その他」の具体例：■合併障害 ■統合失調症 ■小脳性失調症 ■脳髄膜炎等疾病後遺症

【高次脳機能障害の診断の有無】

(n=543)

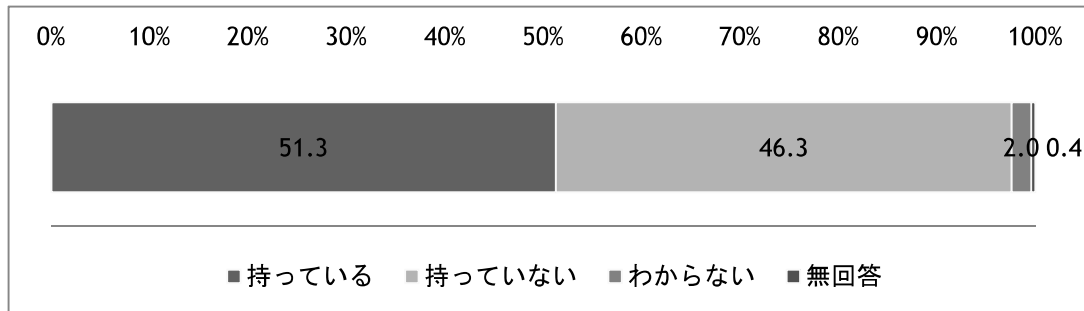


③精神障害者

精神障害者のうち、精神障害者保健福祉手帳を取得している人は5割程度であった。2級が最も多く、他の障害と重複している場合も2級であることが最も多かった。診断名は「気分（感情）障害（うつ病など）」が49.8%と最も多かった。

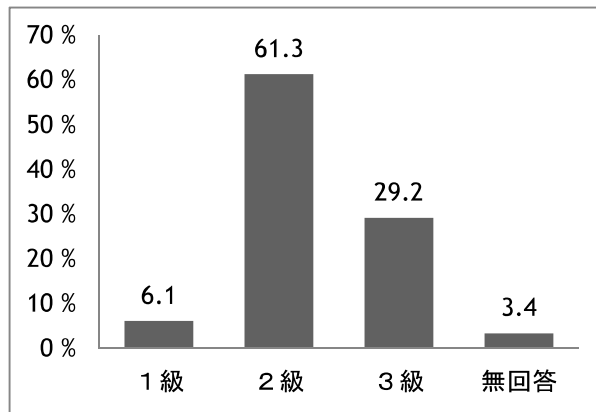
【精神障害者保健福祉手帳の取得状況】

(n=735)



【精神障害者保健福祉手帳等級】

(n=377)

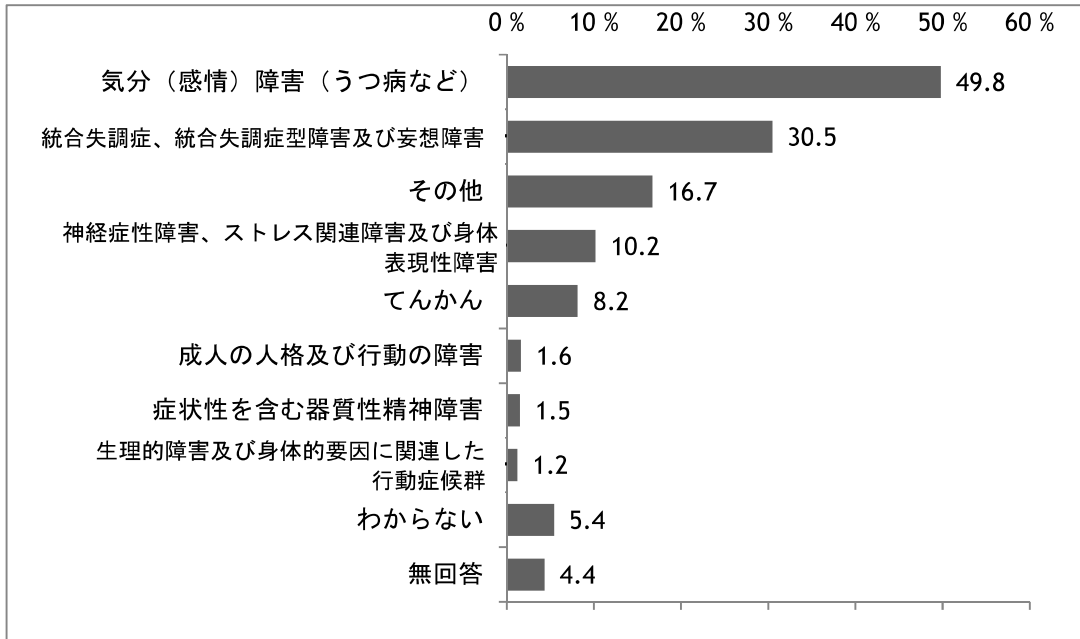


【精神障害者保健福祉手帳等級（他の障害が重複している場合）】

	等級	重度 ← ————— → 軽度			無回答
		1級	2級	3級	
調査票の障害種別	身体障害 (n=43)	8 (18.6%)	28 (48.8%)	8 (18.6%)	6 (14.0%)
	知的障害 (n=54)	12 (22.2%)	32 (59.3%)	5 (9.3%)	5 (9.3%)
	発達障害 (n=7)	1 (14.3%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)	0.0 (0.0%)
	難病 (n=1)	1 (100%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)

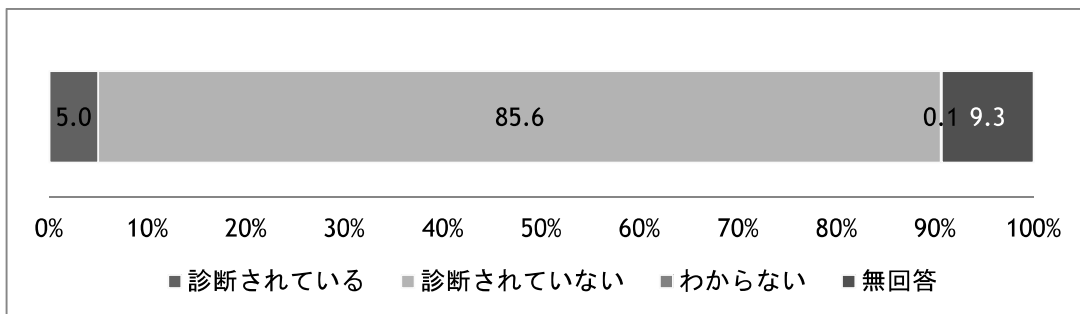
【診断名】

〈複数回答〉(n=735)



【高次脳機能障害の診断の有無】

(n=735)

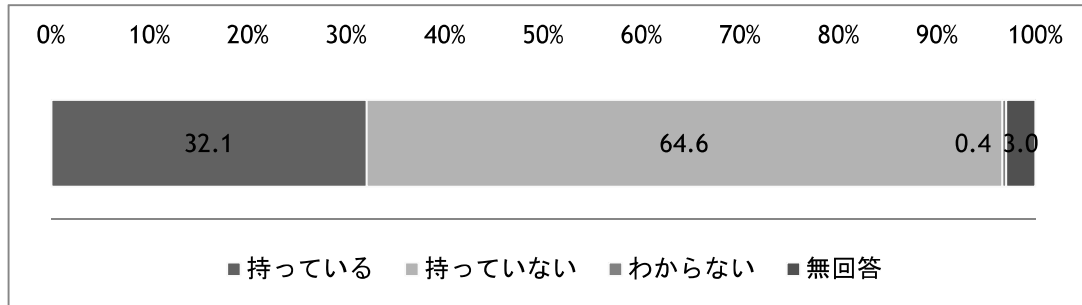


④障害児

障害児のうち、身体障害者手帳を持っている人は32.1%であった。1級が最も多く、障害の種類としては「肢体不自由（体幹）」が最も多かった。療育手帳を持っている人は8割程度であり、等級はB2（中軽度）が多かった。

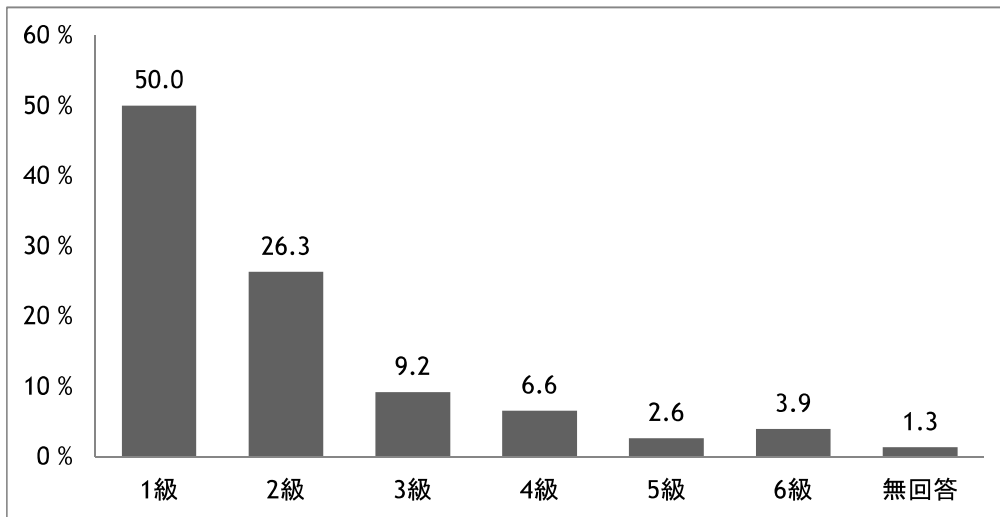
【身体障害者手帳の有無】

(n=237)



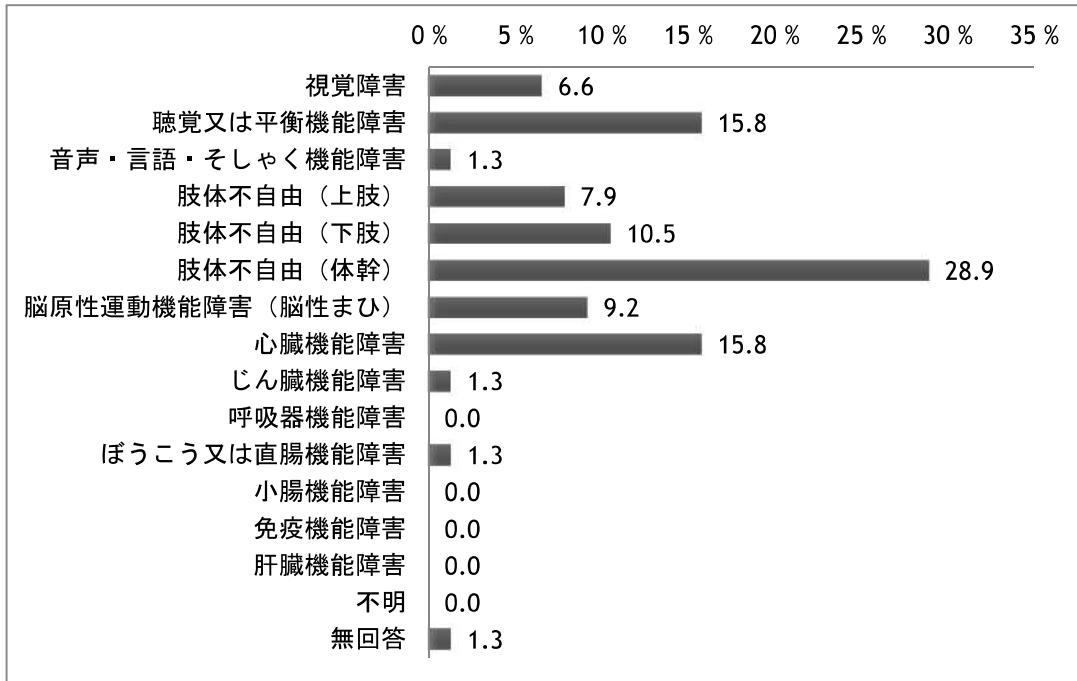
【身体障害者手帳等級】

(n=76)



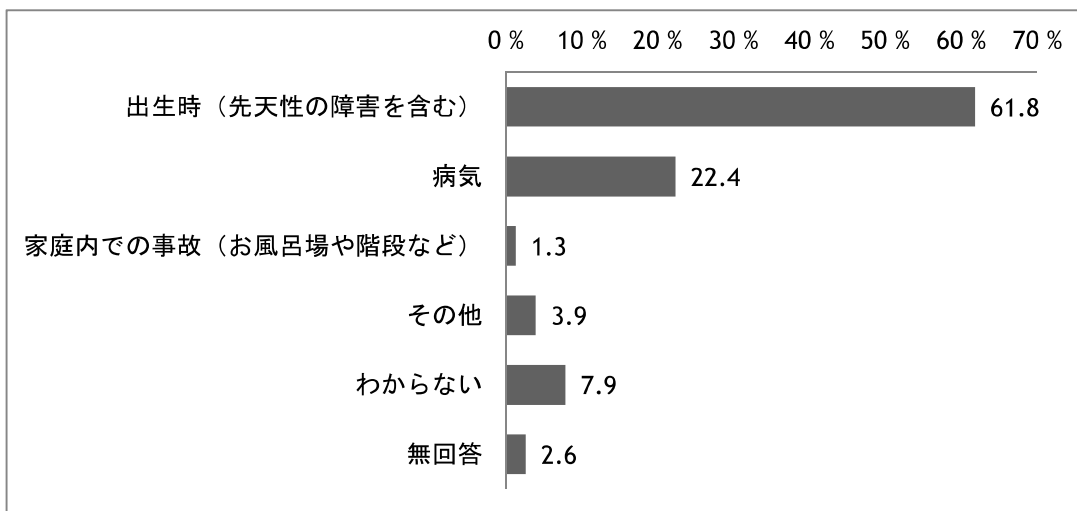
【身体障害の種類】

〈複数回答〉 (n=76)



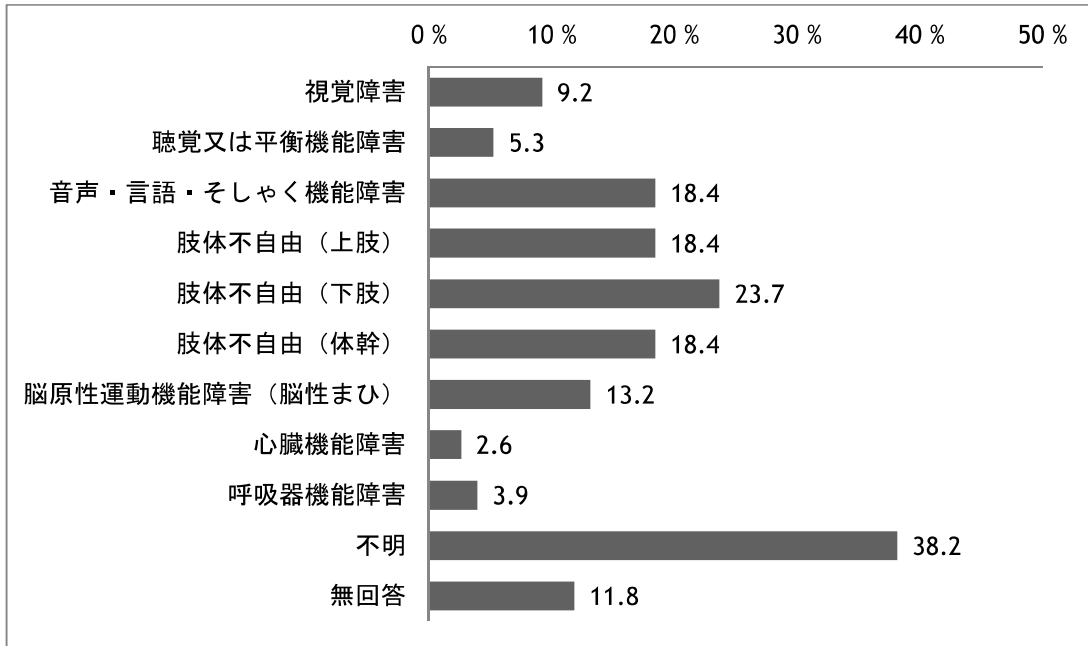
【身体障害の要因】

(n=76)



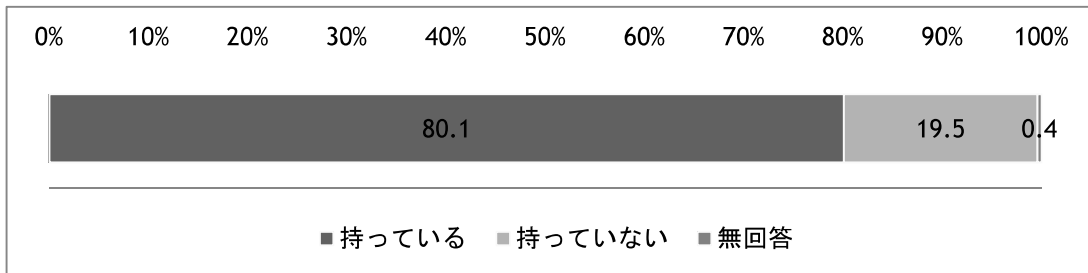
【重複する身体障害の種類】

〈複数回答〉(n=76)



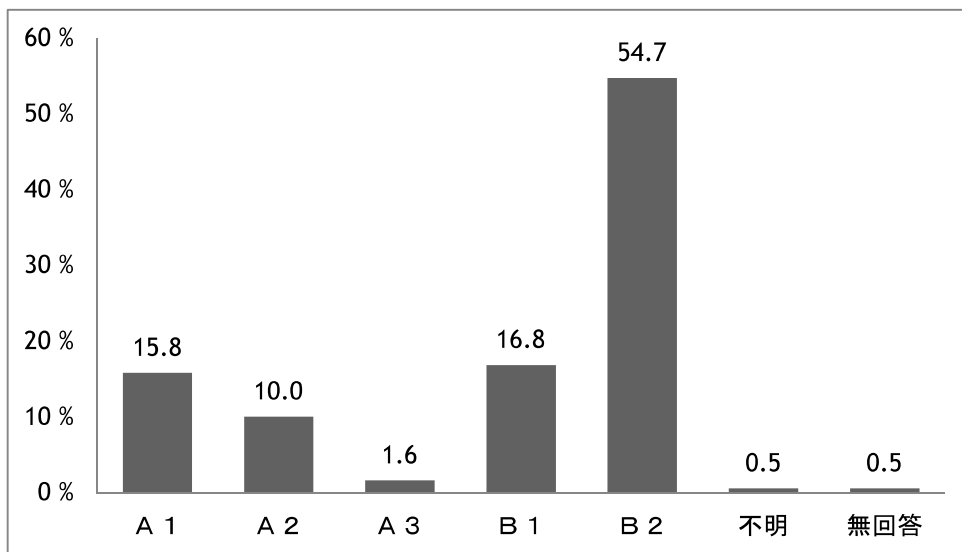
【療育手帳の有無】

(n=237)



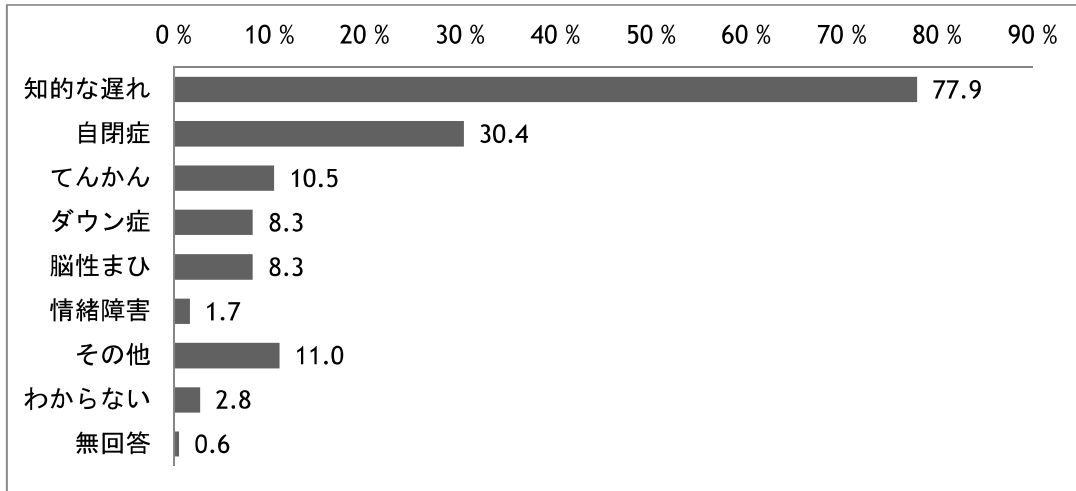
【療育手帳等級】

(n=237)



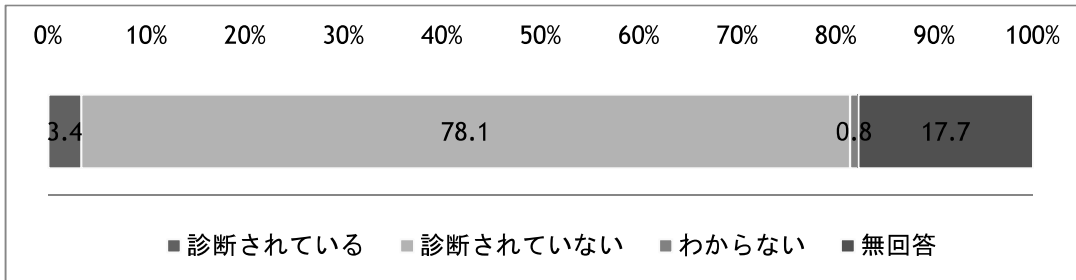
【知的な遅れがある者の診断名】

〈複数回答〉(n=181)



【精神障害の診断の有無】

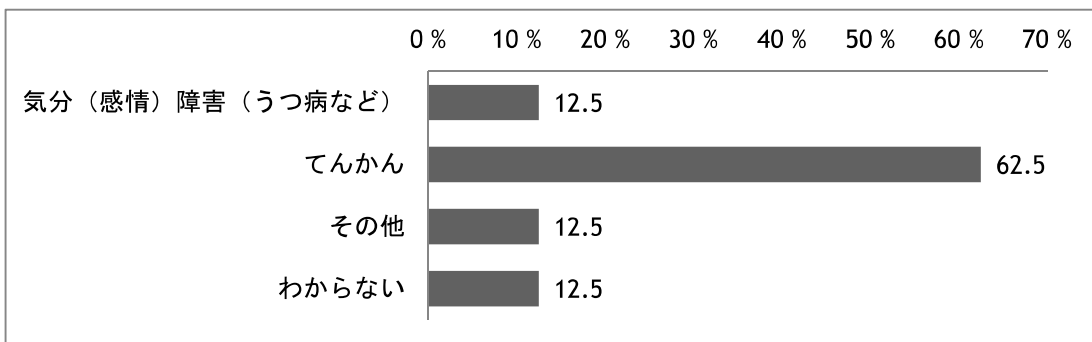
(n=237)



備考) 障害児の中で精神障害者保健福祉手帳を持っている人はいない。

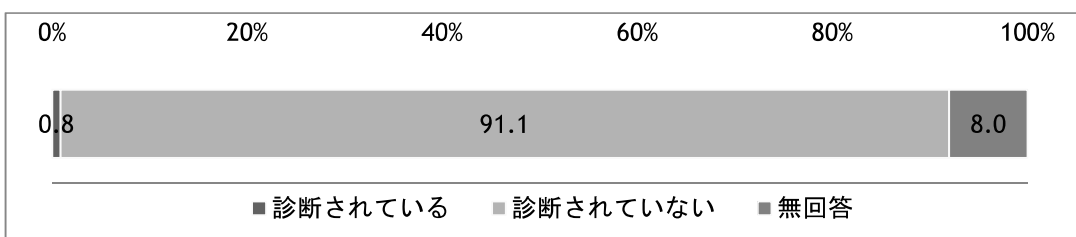
【精神障害の診断名】

〈複数回答〉(n=8)



【高次脳機能障害の診断の有無】

(n=237)

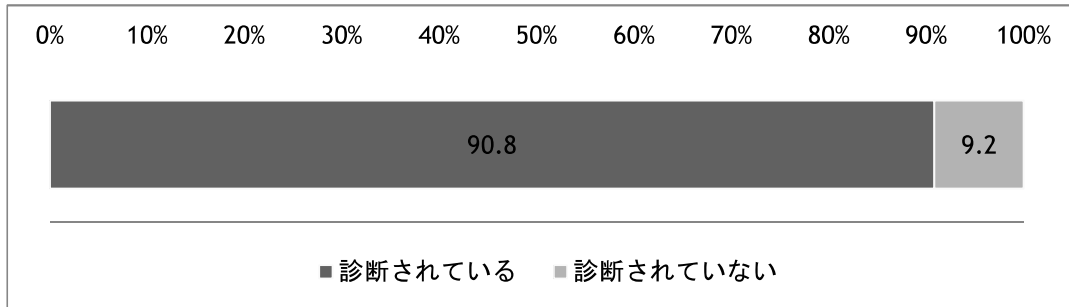


⑤発達障害児（者）

発達障害児（者）のうち、発達障害と診断されている人は90.8%であった。そのうち36.7%の診断名が自閉症であった。療育手帳を持っている人は4割程度であった。

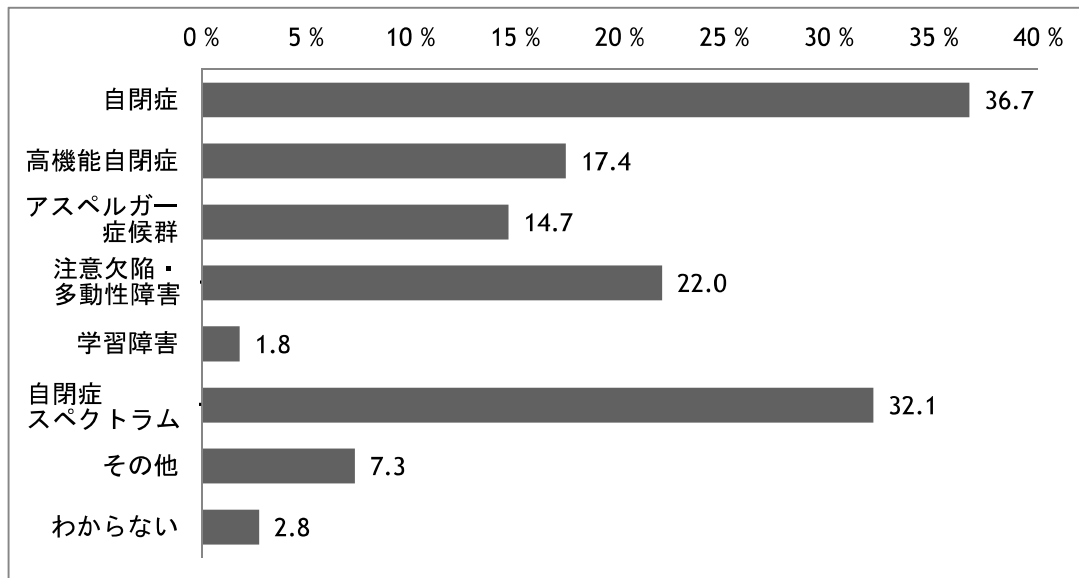
【発達障害の診断】

(n=120)



【診断名】

〈複数回答〉 (n=109)



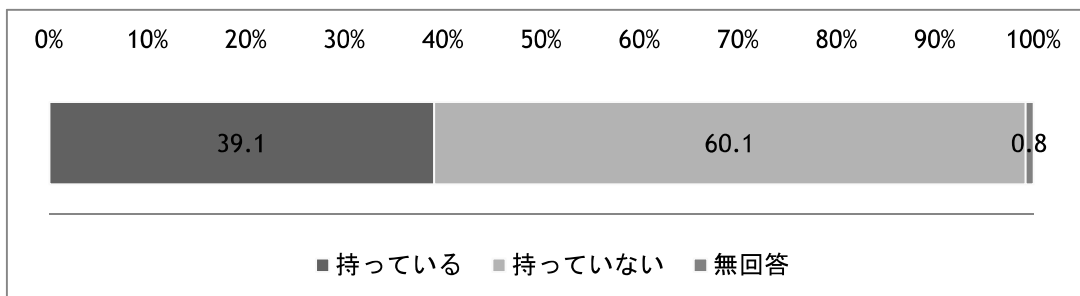
【診断名（他の障害と重複している場合）】

〈複数回答〉（%）

		自閉症	高機能自閉症	アスペルガー 症候群	注意欠陥・ 多動性障害	学習障害	自閉症 スペクトラム症	その他	わからない	無回答
調査票の障害種別	身体障害 (n=41)	2.4	2.4	2.4	4.9	0	0	58.5	22	12.2
	知的障害 (n=170)	34.7	1.8	2.4	8.8	20.0	7.6	16.5	25.3	7.1
	精神障害 (n=102)	19.6	9.8	23.5	18.6	8.8	13.7	20.6	20.6	3.9
	障害児 (n=124)	33.1	4.8	3.2	16.9	16.1	22.6	15.3	17.7	0.8
	難病 (n=1)	0	0	0	0	0	0	100	0	0

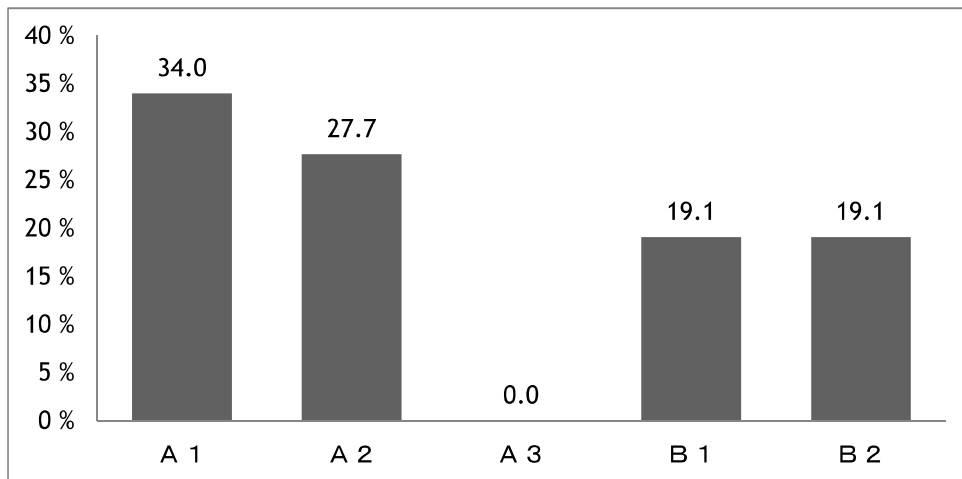
【療育手帳の有無】

(n=120)



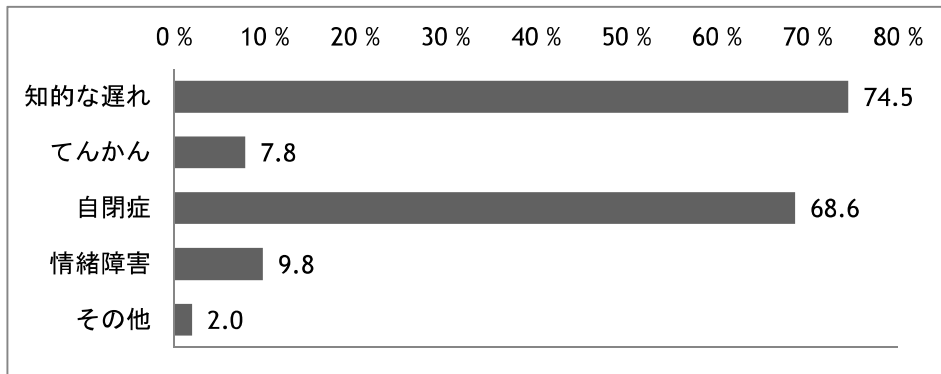
【療育手帳の等級】

(n=120)



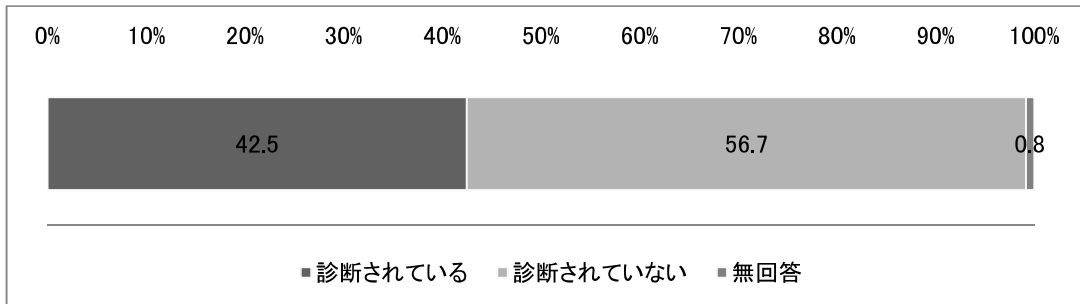
【知的な遅れがある者の診断名】

〈複数回答〉(n=51)



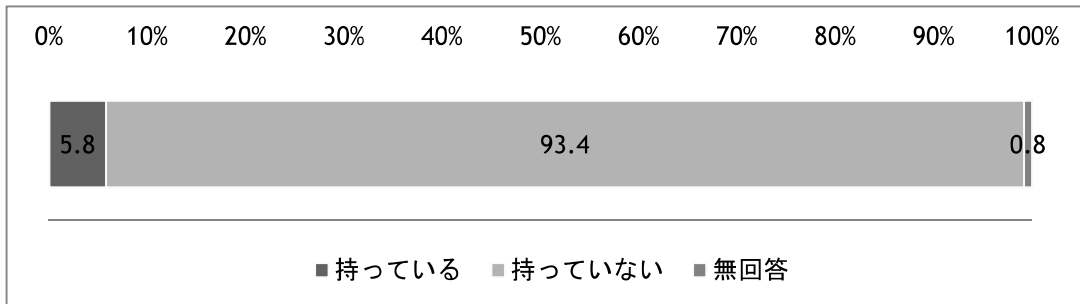
【精神障害の診断の有無】

(n=120)



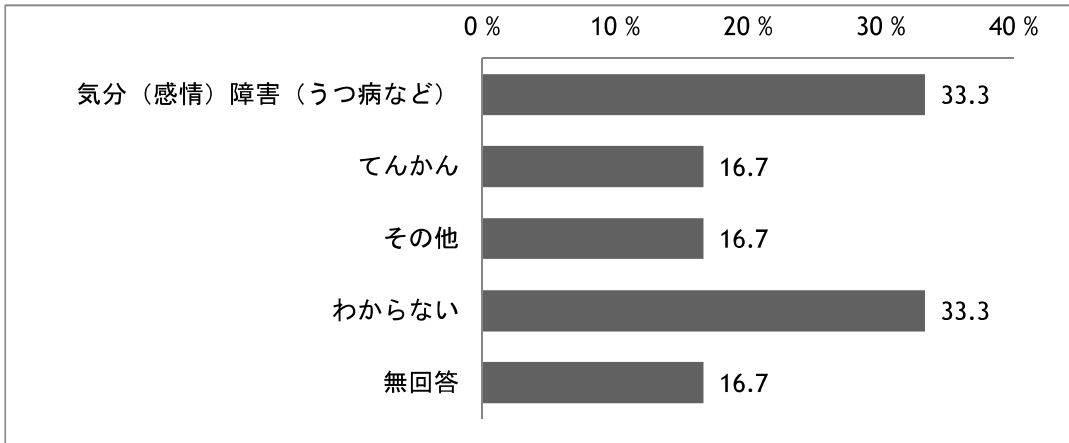
【精神障害者障保健福祉手帳の有無】

(n=120)



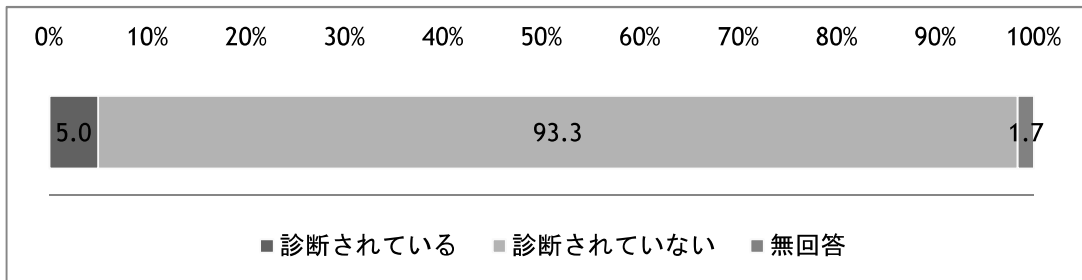
【精神障害がある者の診断名】

〈複数回答〉(n=6)



【高次脳機能障害の診断の有無】

(n=120)



⑥難病患者

難病患者のうち、身体障害者手帳を持っている人は62.9%であった。

【疾患の種類】

(n=73)

疾患名	実数	%
潰瘍性大腸炎	10	13.7
クローン病	10	13.7
パーキンソン病	9	12.3
全身性エリテマトーデス	7	9.6
IgA 腎症	6	8.2
急速進行性糸球体腎炎	5	6.8
網膜色素変性症	5	6.8
強皮症	4	5.5
先天性ミオパチー	2	2.7
皮膚筋炎	2	2.7
ベーチェット病	2	2.7
関節リュウマチ, 筋萎縮性側索硬化症, 抗糸球体基底膜腎炎, 混合性結合組織病, シェーグレン症候群, 紫斑病性腎炎, 総排泄腔遺残, 高安動脈炎, 多発性硬化症, 多発性嚢胞腎, 特発性間質性肺炎	各1	各1.4

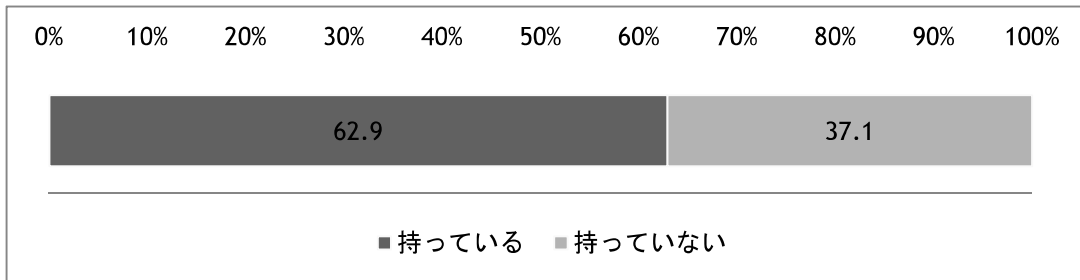
【疾患の種類（他の障害が重複している場合）】

(人)

調査票の障害種別								
身体障害		知的障害		精神障害		障害児		
網膜色素変性症	15	神経繊維腫症	2	シェーグレン症候群	3	ダウン症候群	5	
関節リュウマチ	10	脊髄小脳変性症	2	アルカルディ症候群	2	ウエスト症候群	3	
パーキンソン病	7	ダウン症候群	2	クローン病	2	ファロー四徴症	2	
脊髄小脳変性症	5	レノックス・ガスト一症候群	2	アイザックス症候群	各1	ブラダー・ウィリ症候群	2	
潰瘍性大腸炎	5	IgG4 関連疾患	各1	IgA 腎症	各1	ライソゾーム病	2	
重症筋無力症	各4	アッシャー症候群		アミロイドーシス		各1	眼皮膚白皮症 筋ジストロフィー 左心底形成症候群 色素性乾皮症 脊髄性筋萎縮症 腸管神経節細胞 僅少症 ミトコンドリア 症候群	各1
多系統萎縮症		ウィリアムズ症候群		神経繊維腫症				
クローン病	各3	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	全身性エリテマトーデス	ベーチェット病	ペルオキシソーム病			
全身性エリテマトーデス		抗リン脂質抗体症候群	三尖弁閉鎖症					
多発性硬化症								
特発性大腿骨頭壊死症								
もやもや病								

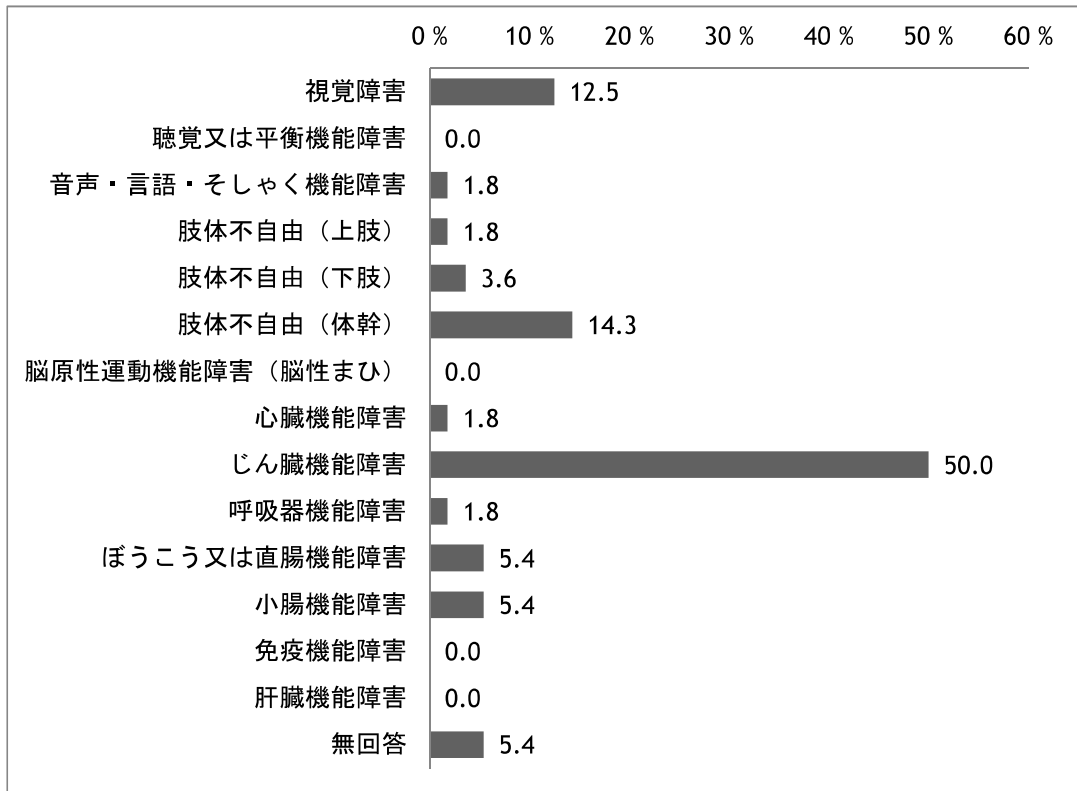
【身体障害者手帳の有無】

(n=89)



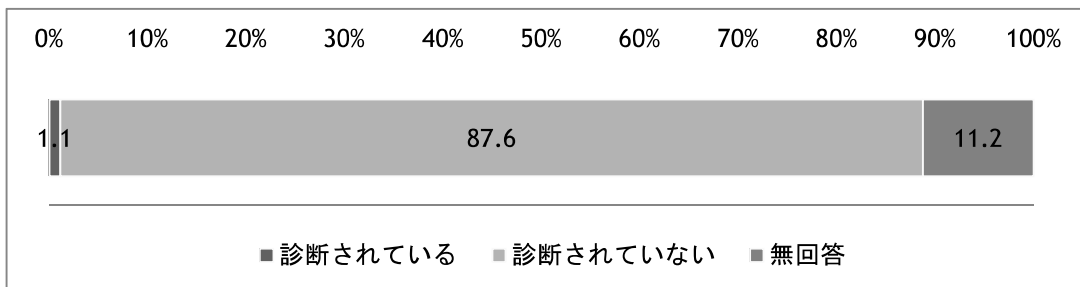
【重複する身体障害の種類】

〈複数回答〉 (n=56)



【高次脳機能障害の診断の有無】

(n=89)

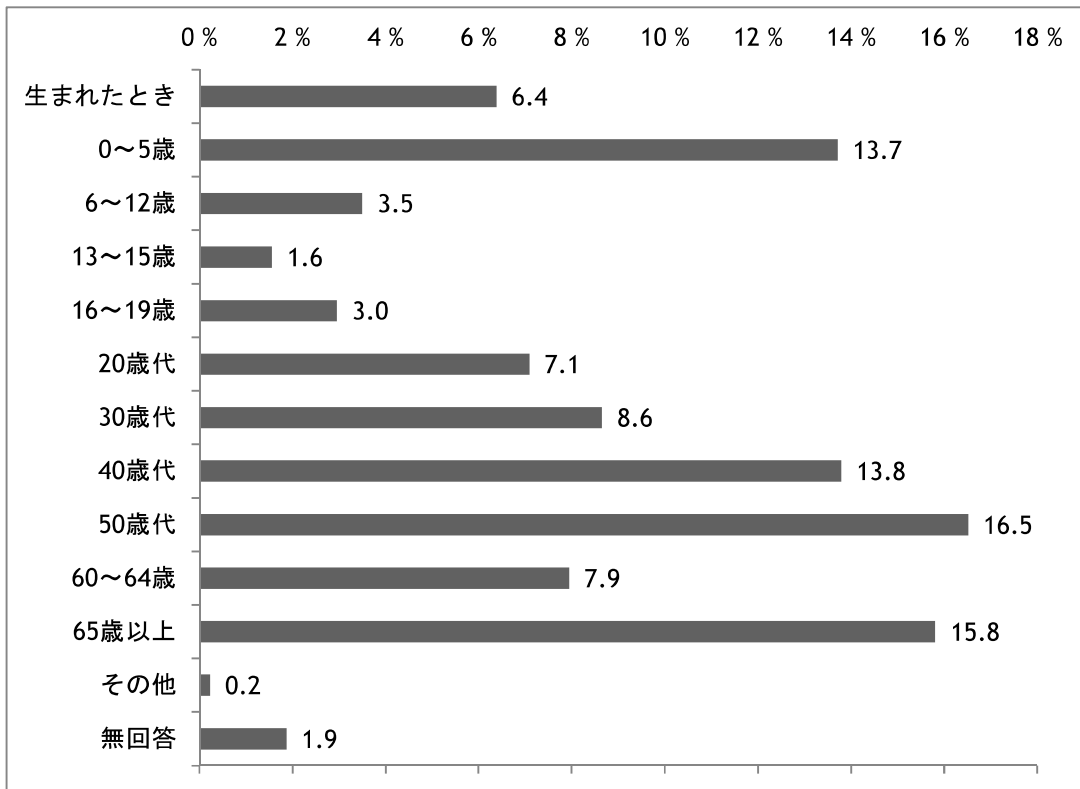


6) 発病・診断の時期

障害種別により、発病または初めて診断される時期に特徴がある。精神障害者は20歳代が最も多く、難病患者の診断は年齢と共に徐々に上昇し、40歳代がピークになっている。

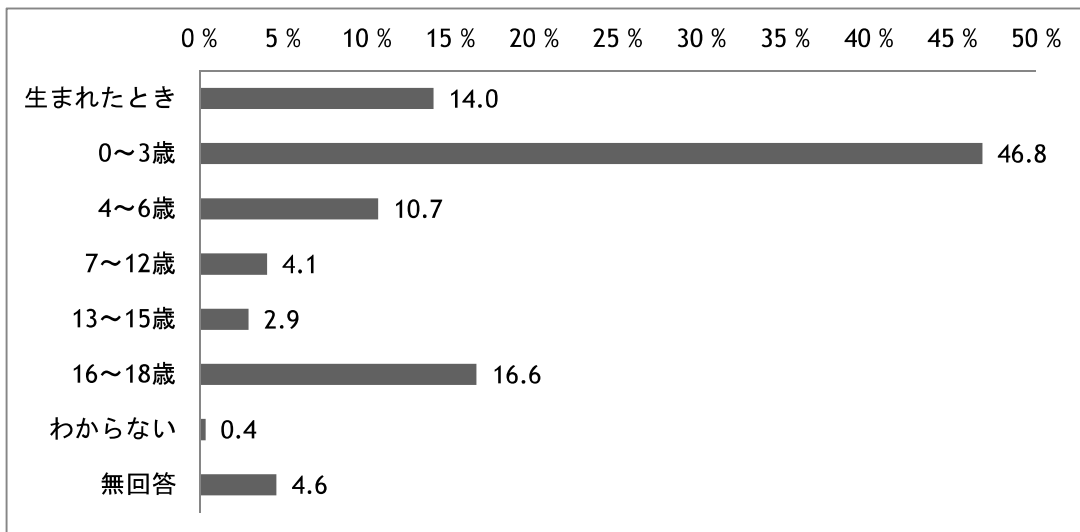
①身体障害者

(n=1284)



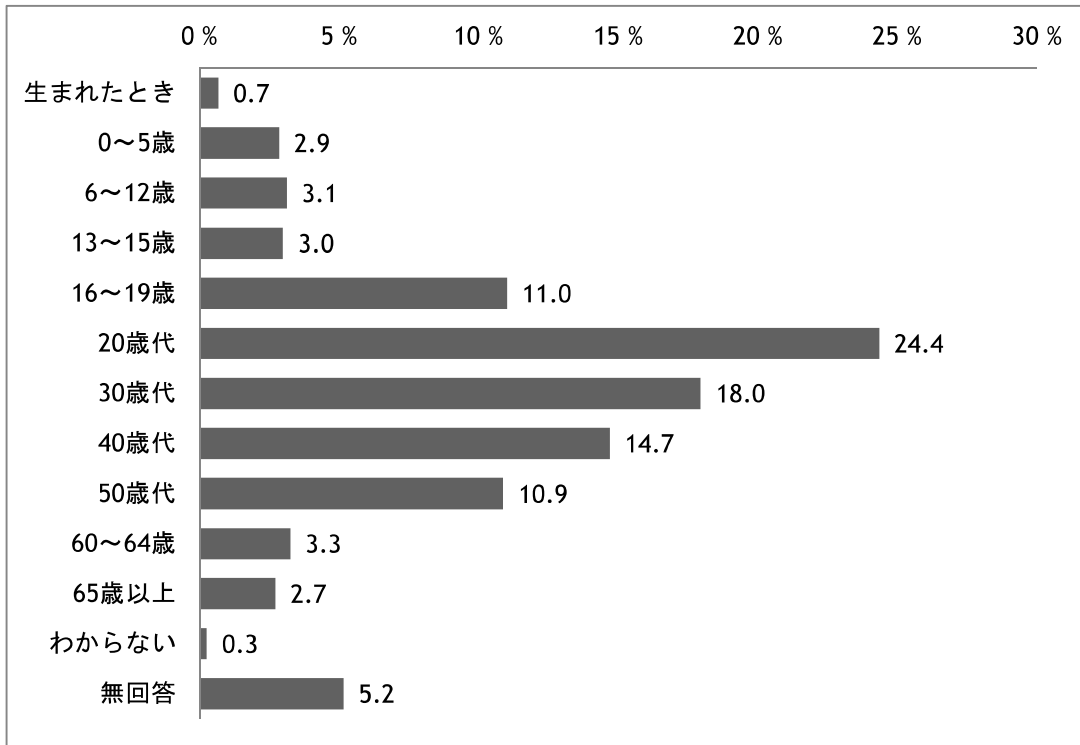
②知的障害者

(n=543)



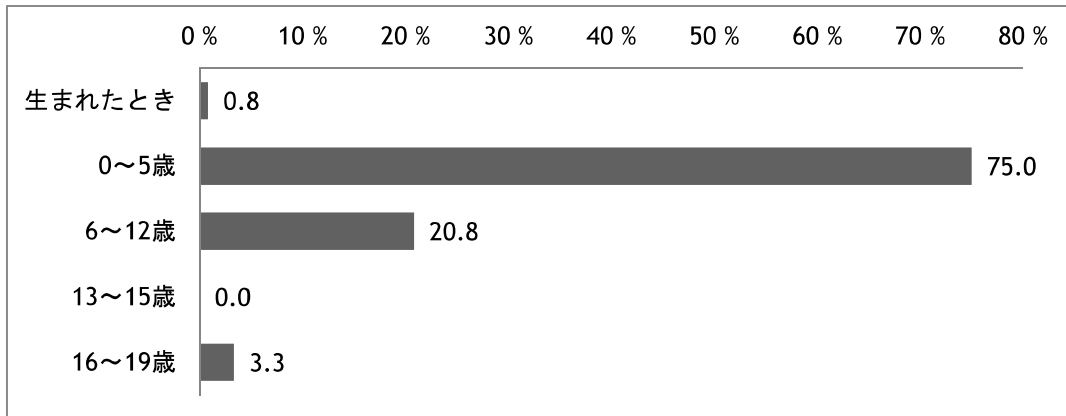
③精神障害者

(n=735)



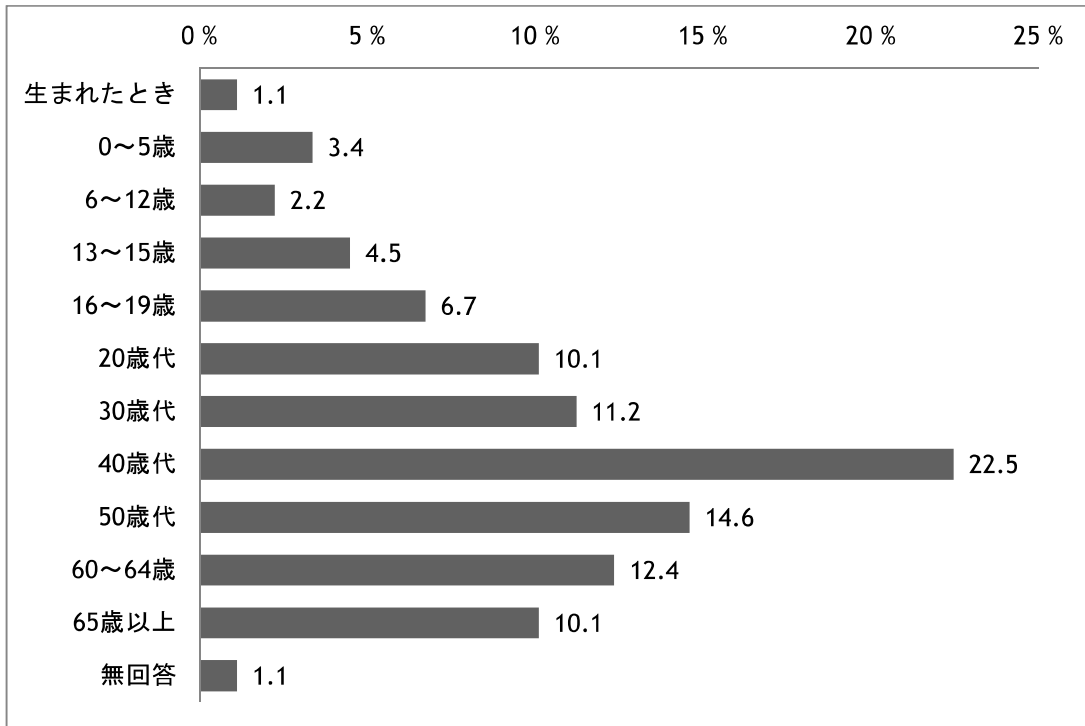
④発達障害者

(n=120)



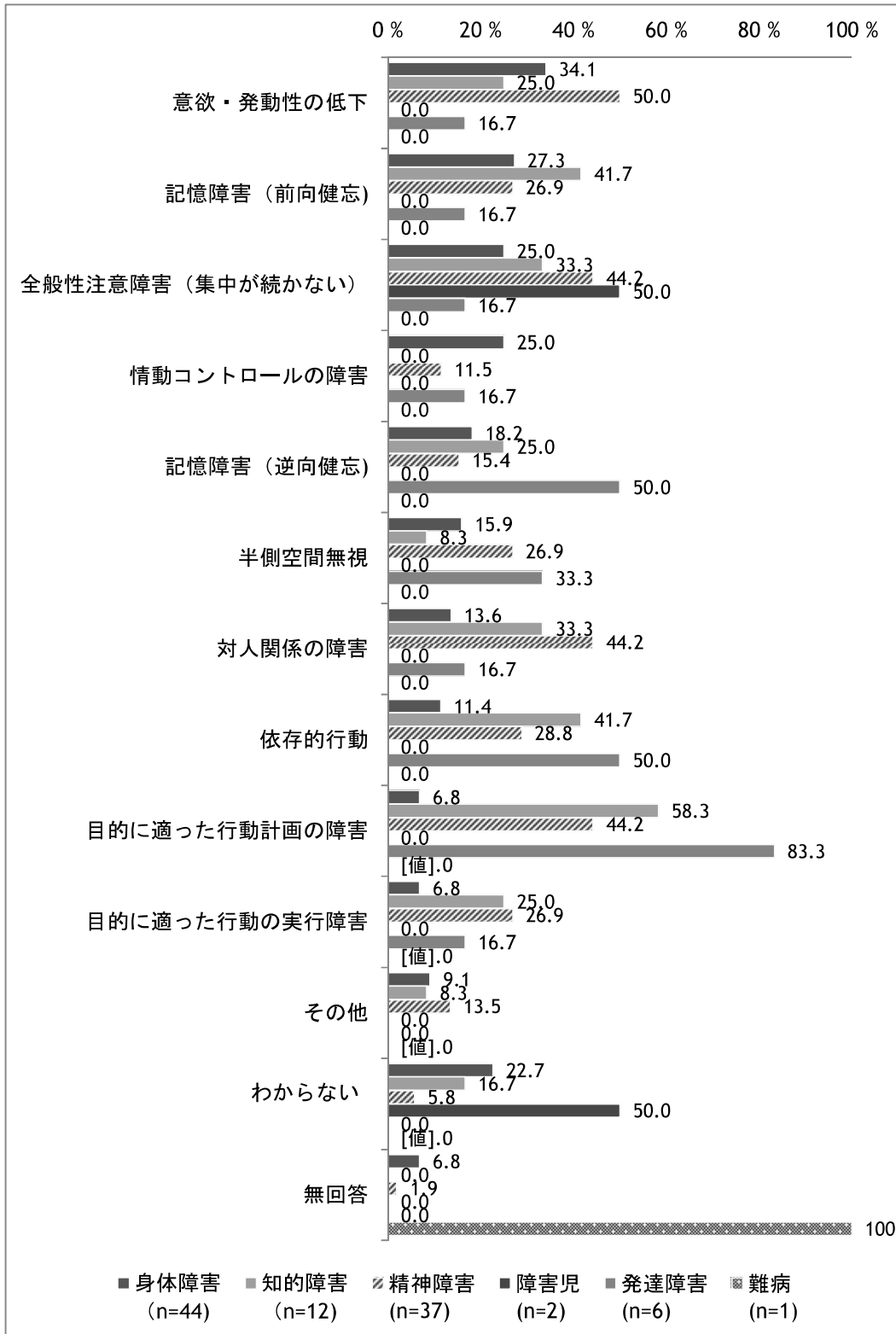
⑤難病患者（診断時の年齢）

(n=89)



7) 高次脳機能障害が重複する場合の関連障害

高次脳機能障害がある場合、「目的にかなった行動計画の障害」や「全般性注意障害」が比較的多く現れている。 〈複数回答〉



備考) 詳細データは次表参照

第1節 暮らしの状況（1. 調査対象者の属性）

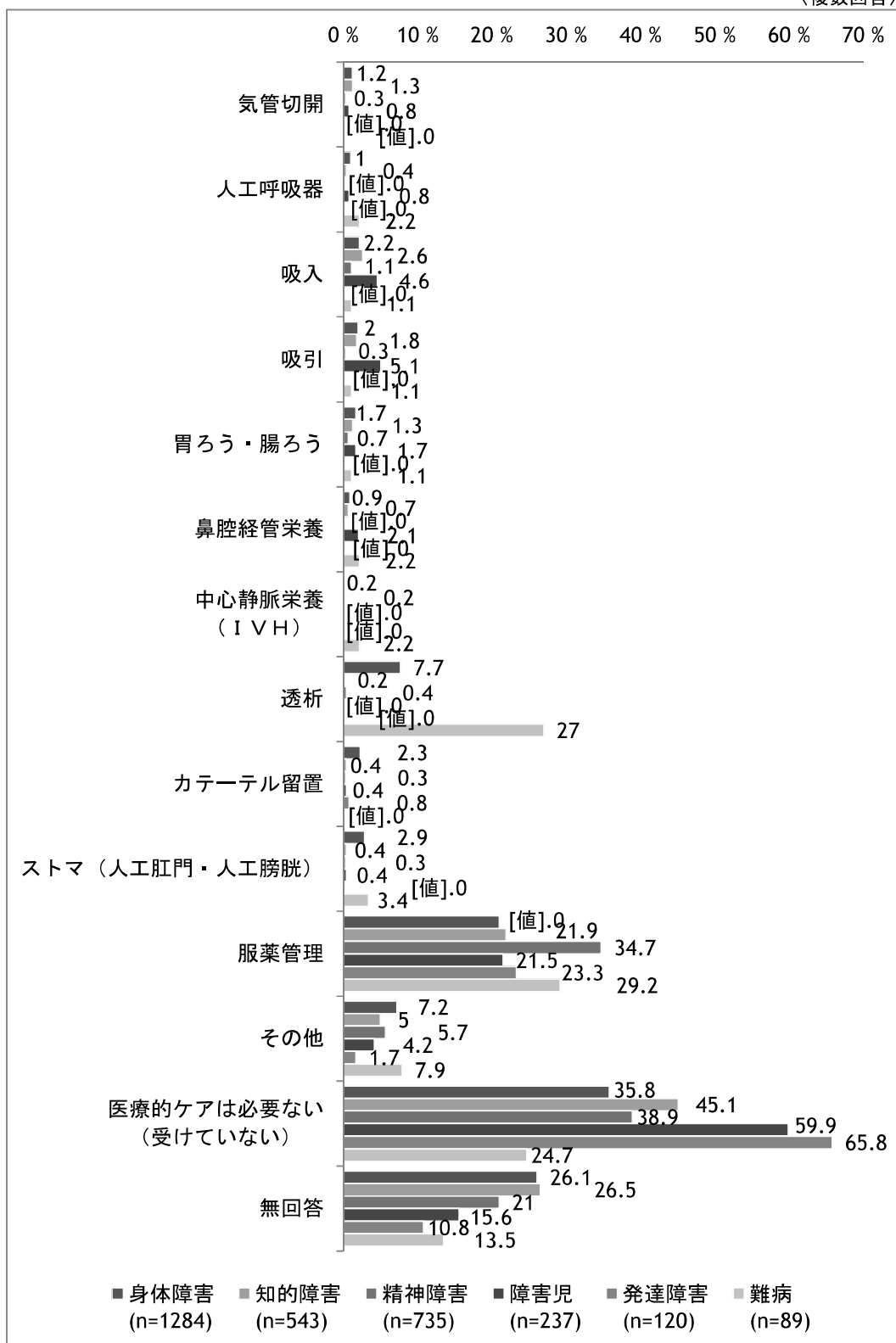
〈複数回答〉(%)

	意欲・発動性の低下	記憶障害（前向健忘）	全般性注意障害（集中が続かない）	情動コントロールの障害	記憶障害（逆向健忘）	半側空間無視	対人関係の障害	依存的行動	目的に適った行動計画の障害	目的に適った行動の実行障害	その他	わからない	無回答
身体障害 (n=44)	34.1	27.3	25.0	25.0	18.2	15.9	13.6	11.4	6.8	6.8	9.1	22.7	6.8
知的障害 (n=12)	25.0	41.7	33.3	0.0	25.0	8.3	33.3	41.7	58.3	25.0	8.3	16.7	0.0
精神障害 (n=37)	50.0	26.9	44.2	11.5	15.4	26.9	44.2	28.8	44.2	26.9	13.5	5.8	1.9
障害児 (n=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
発達障害 (n=6)	16.7	16.7	16.7	16.7	50.0	33.3	16.7	50.0	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0
難病患者 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

8) 現在受けている医療ケア（家族による介助含む）

どの障害種別においても、現在受けている医療ケアとして「服薬管理」を挙げており、難病患者については透析を受けている人も3割程度含まれていた。

〈複数回答〉



備考) 詳細データは次表参照

第1節 暮らしの状況（1. 調査対象者の属性）

〈複数回答〉(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病患者 (n=89)
気管切開	1.2	1.3	0.3	0.8	0	0
人工呼吸器	1.0	0.4	0.0	0.8	0	2.2
吸入	2.2	2.6	1.1	4.6	0	1.1
吸引	2.0	1.8	0.3	5.1	0	1.1
胃ろう・腸ろう	1.7	1.3	0.7	1.7	0	1.1
鼻腔経管栄養	0.9	0.7	0.0	2.1	0	2.2
中心静脈栄養 (IVH)	0.2	0.2	0.0	0.0	0	2.2
透析	7.7	0.2	0.4	0.0	0	27.0
カテーテル留置	2.3	0.4	0.3	0.4	0.8	0.0
ストマ (人工肛門・人工膀胱)	2.9	0.4	0.3	0.4	0.0	3.4
服薬管理	21.0	21.9	34.7	21.5	23.3	29.2
その他	7.2	5.0	5.7	4.2	1.7	7.9
医療的ケアは必要 ない(受けていない)	35.8	45.1	38.9	59.9	65.8	24.7
無回答	26.1	26.5	21.0	15.6	10.8	13.5

「その他」の具体例： ■心臓ペースメーカー ■自己注射 ■点滴 ■酸素吸入

2. 住まいについて

回答者の多くが自宅で生活しており、そのほとんどは、家族または自分の持家に住んでいる。また、精神障害者は4割以上が賃貸住宅に住んでいる。知的障害者では約25%がグループホームや施設に入所しており、他の障害種よりも高い入所率になっている。回答者の多くが親や配偶者と同居しており、高齢化の傾向にある身体障害者や難病患者の場合は、子どもとの同居もみられる。一方、障害児や発達障害者では、6割以上が兄弟姉妹とも同居している。概ね2割前後の回答者が引越しを希望しているが、精神障害者については4割弱が引越しを希望しており、その26%が「自立したい」ことが理由であった。

1) 現在の状況（精神障害者のみ）

(n=735) (%)

自宅で生活	90.2
精神科に入院	3.0
福祉施設に入所	5.0
その他	0.8
無回答	1.0

2) 現在の住まい

回答者の多くが「自宅」に住んでおり、知的障害者では他の障害よりもグループホームや施設に入所している割合が高くなっている。

(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (入院を除く) (n=670)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病患者 (n=89)
自宅	88.3	69.4	95.9	94.6	90.8	97.7
あなた自身の持家	32.0	3.1	14.5	1.3	0.0	41.6
家族の持家	28.8	40.3	36.9	62.9	65.0	34.8
民間賃貸住宅	16.7	15.5	29.6	19.4	15.0	14.6
公共賃貸住宅	10.8	10.5	14.9	11.0	10.8	6.7
寮、社宅	0.6	0.6	1.0	0.4	3.3	0.0
グループホーム	0.9	9.6	0.6	0.0	2.5	0.0
入所型の施設	6.5	15.5	0.6	3.4	1.7	0.0
その他	2.5	3.3	1.6	1.3	0.0	1.1
わからない	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
無回答	1.2	1.7	0.3	0.0	1.7	1.1

3) 引越しについて

概ね2割前後の回答者が引越しを希望しているが、精神障害者については4割弱が引越しを希望しており、その26%が「自立したい」ことが理由であった。

①引越しの希望の有無

(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=670)	発達障害 (n=120)	難病患者 (n=89)
あり	24.1	17.5	37.3	20.0	29.2
なし	69.5	73.7	60.4	77.5	70.8
わからない	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	6.3	8.8	2.2	2.5	0.0

②引越し希望の理由

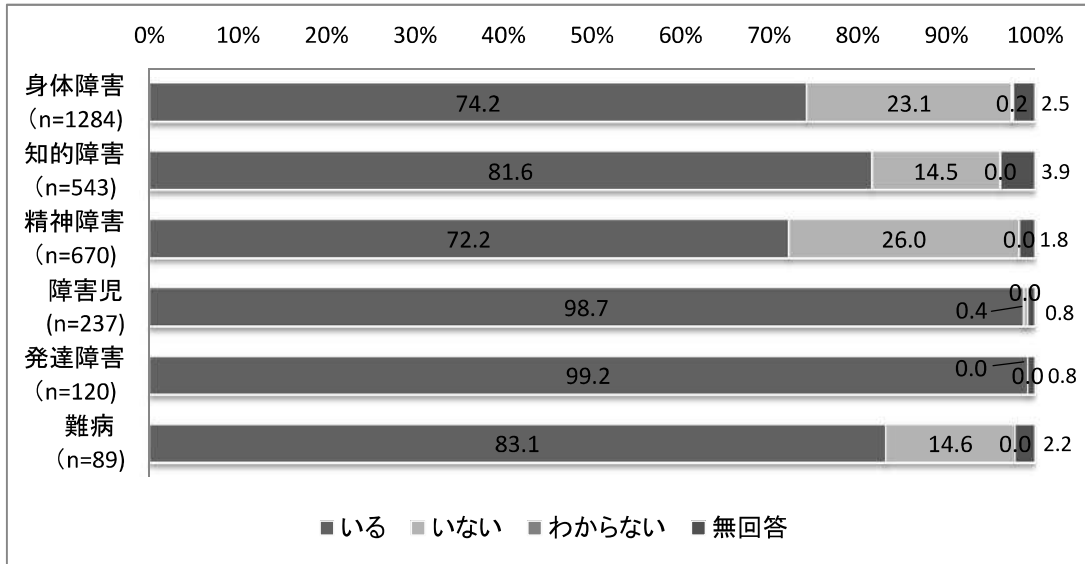
〈複数回答〉 (%)

	身体障害 (n=317)	知的障害 (n=95)	精神障害 (n=250)	発達障害 (n=24)	難病患者 (n=26)
家が狭い	21.5	25.3	23.6	37.5	11.5
家が古い	27.8	27.4	25.6	37.5	30.8
バリアフリーになっていない	29.7	12.6	11.6	0.0	26.9
交通の利便性が悪い	16.1	16.8	18.4	16.7	23.1
日常の買い物が不便	17.4	12.6	15.2	8.3	23.1
医療や福祉サービスが受けにくい	3.5	2.1	6.0	0.0	3.8
家賃が高い	16.1	14.7	16.4	8.3	15.4
近隣とのトラブル	8.8	11.6	19.2	12.5	0.0
自立したい	6.9	20.0	26.0	12.5	7.7
その他	19.9	21.1	25.2	16.7	0.0
無回答	4.1	0.0	1.2	0.0	34.5

4) 同居している人について

回答者の多くが親や配偶者と同居しており、高齢化の傾向にある身体障害者や難病患者の場合は、子どもとの同居も3～4割程度みられる。

① 同居している人の有無



②同居している人との関係

〈複数回答〉 (%)

	身体障害 (n=953)	知的障害 (n=443)	精神障害 (n=484)	障害児 (n=234)	発達障害 (n=119)	難病患者 (n=74)
配偶者	59.8	5.6	41.3	0.9	0.8	82.4
親	23.9	63.0	48.1	95.7	95.0	18.9
子ども	38.3	5.6	26.7	0.9	0.8	31.1
祖父母	0.7	4.5	2.1	12.0	10.1	2.7
孫	5.8	0.2	0.8	0.0	0.0	4.1
兄弟姉妹	8.1	27.5	13.8	68.4	61.3	6.8
その他親族	1.7	1.1	1.9	0.9	1.7	0.0
寮や施設の仲間	5.0	22.1	0.6	3.0	4.2	0.0
その他	1.6	2.0	1.0	0.4	0.0	0.0
無回答	0.3	0.7	0.8	0.4	0.0	0.0

3. 通院・通所状況について（自宅で生活している精神障害者のみ）

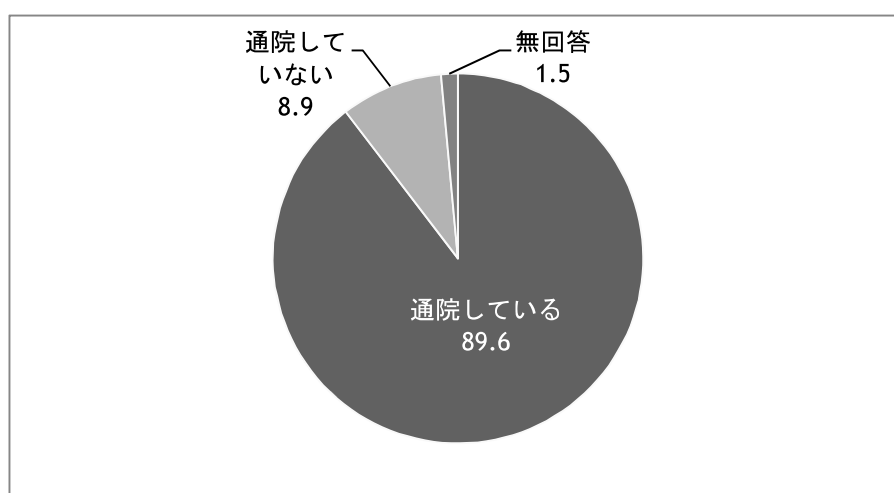
精神障害者のうち約9割が現在通院している。回答者の約6割に精神科入院経験があるが、その4割が退院後5年以上経過しており、継続的に地域で生活している。自宅で生活する精神障害者の通院頻度は、月に1回程度が最も多くなっている。

回答者の15.5%が福祉施設に通所しており、通所の頻度は週2～3回が最も多くなっている。また、福祉施設への通所が5年以上にのぼる人は34%となっている。通所している福祉施設に対しては、多くの回答者が「不満はない」と答えている。

1) 精神科への通院状況

地域で生活している回答者の9割が現在、通院していた。

(n=663) (%)

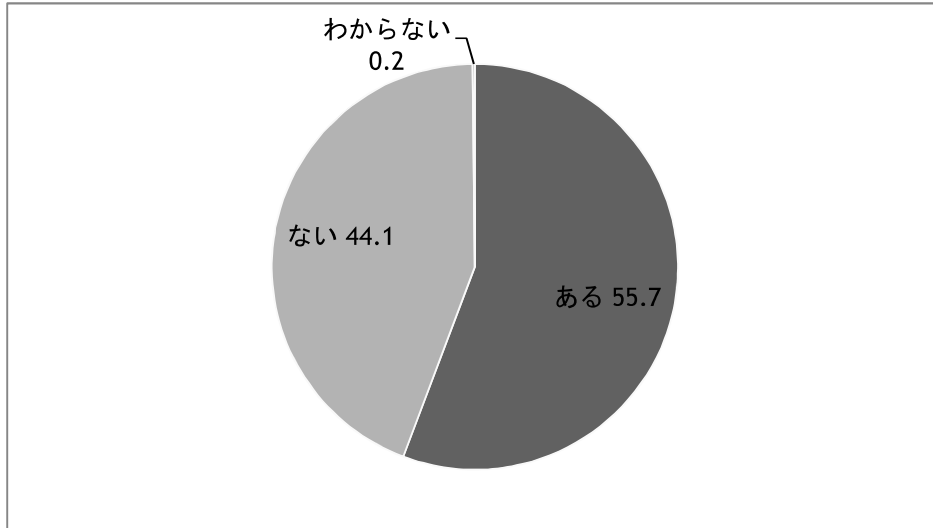


2) 精神科入院経験

回答者の約6割に精神科入院経験があるが、その4割が退院後5年以上経過しており、継続的に地域で生活している。

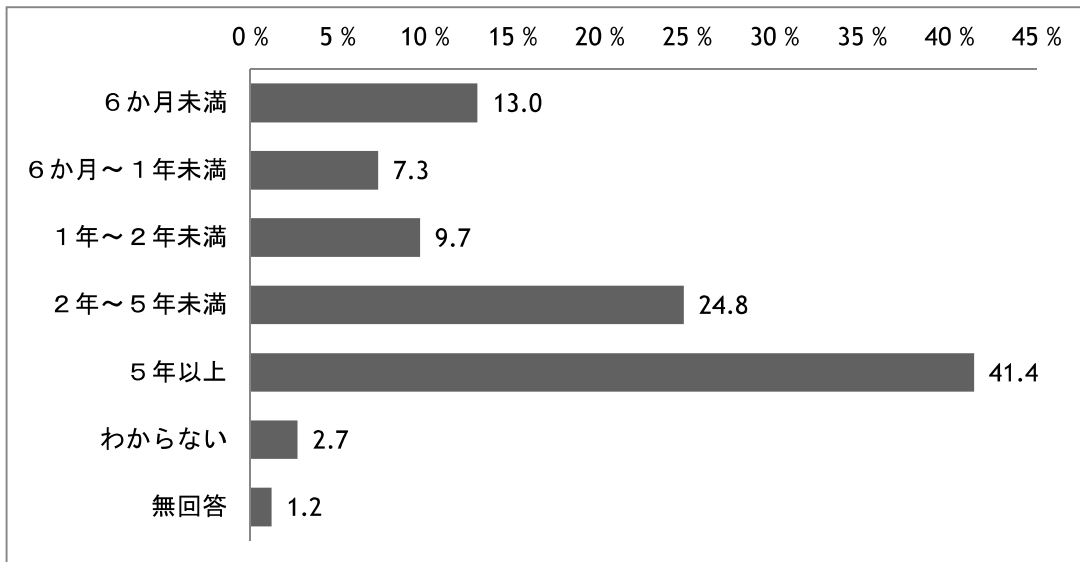
② 入院経験の有無

(n=594) (%)



②退院後からの期間

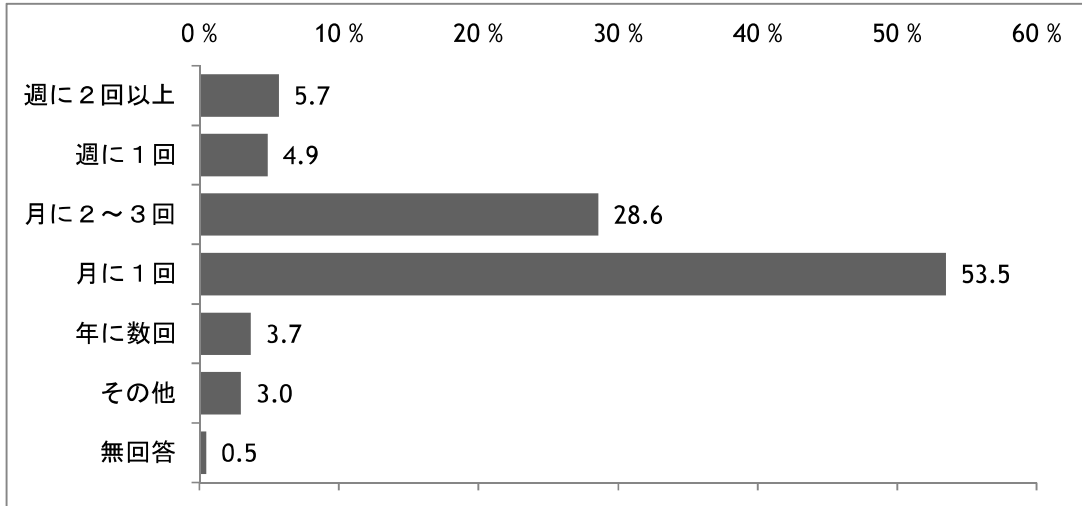
(n=331)



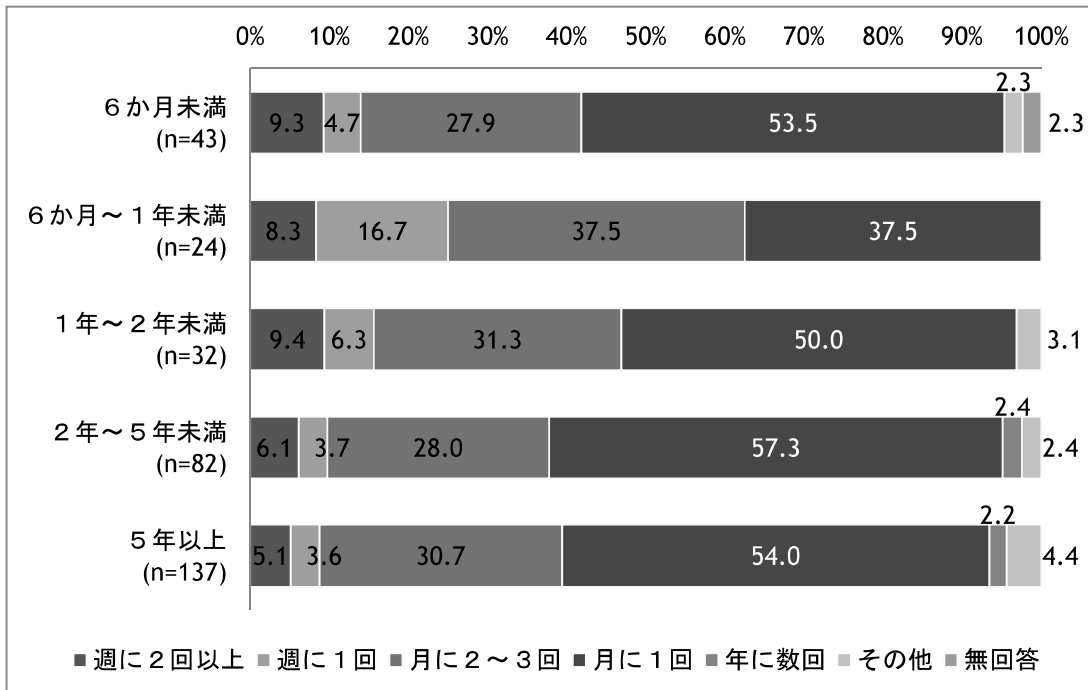
3) 通院頻度

月に1回程度の通院頻度が最も多くなっている。退院から6か月未満の人と比較し、6か月～1年未満の人の方が、通院頻度が増えている。1年以上地域生活を送っている人の約半数は、地域生活の長さにかかわらず、月1回の通院が多い。

(n=594)



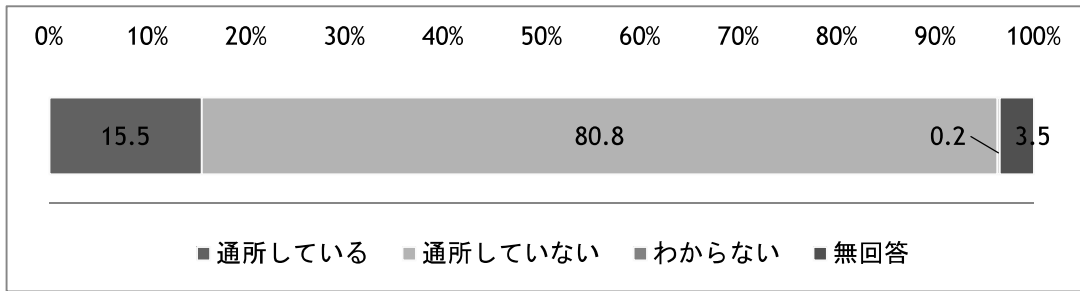
【地域生活の長さとお院頻度の関係】



4) 福祉施設通所状況

回答者の15.5%が福祉施設に通所している。

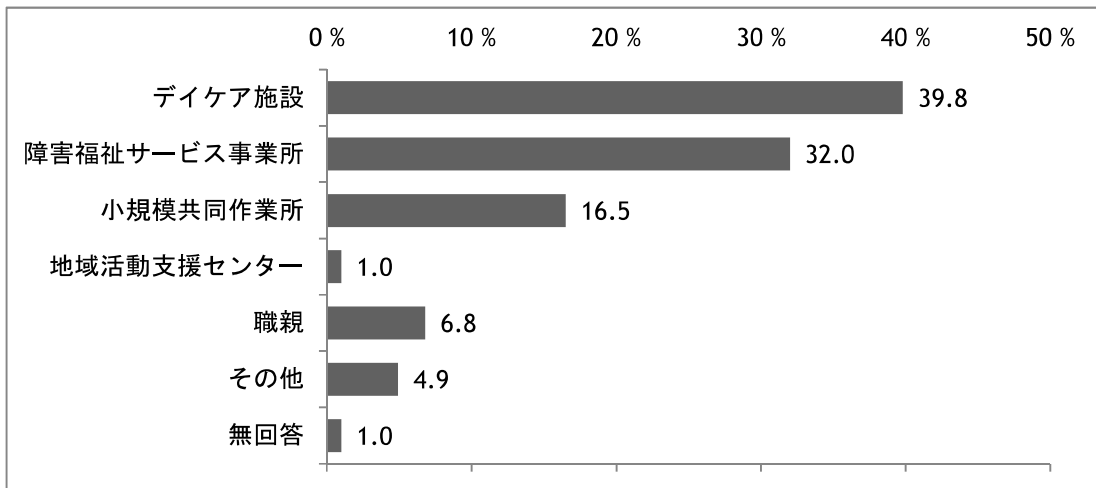
(n=663)



5) 通所中の福祉施設の種類

通所中の福祉施設は、デイケア施設が4割程度、障害福祉サービス事業所が3割程度を占めている。

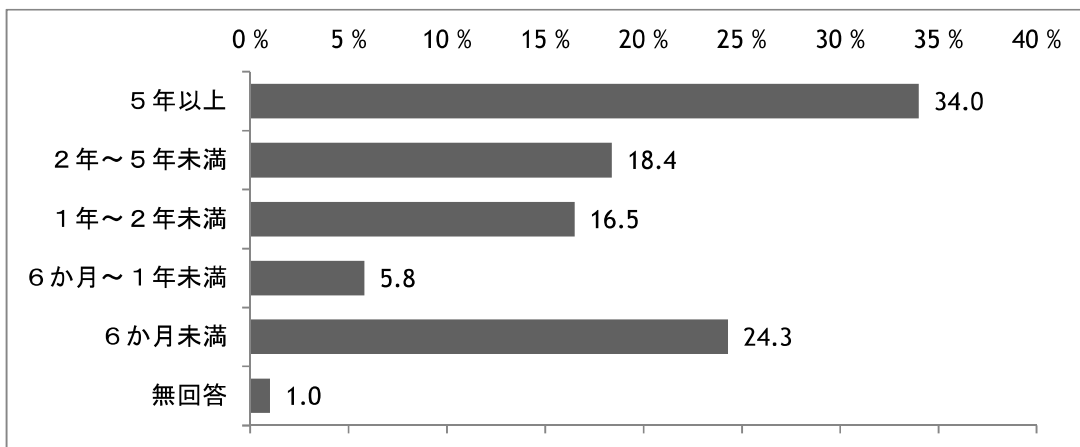
〈複数回答〉(n=103)



6) 福祉施設通所歴

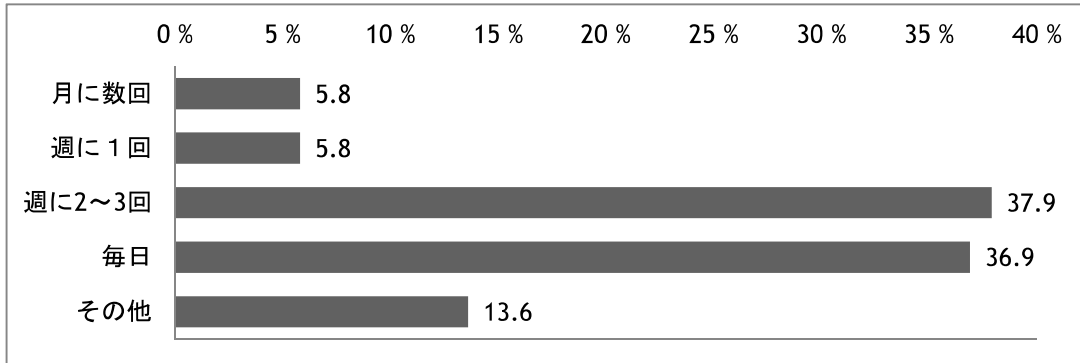
デイケアを含む福祉施設への通所が5年以上にのぼる人は34%であった。

(n=103) (%)



7) 福祉施設通所頻度

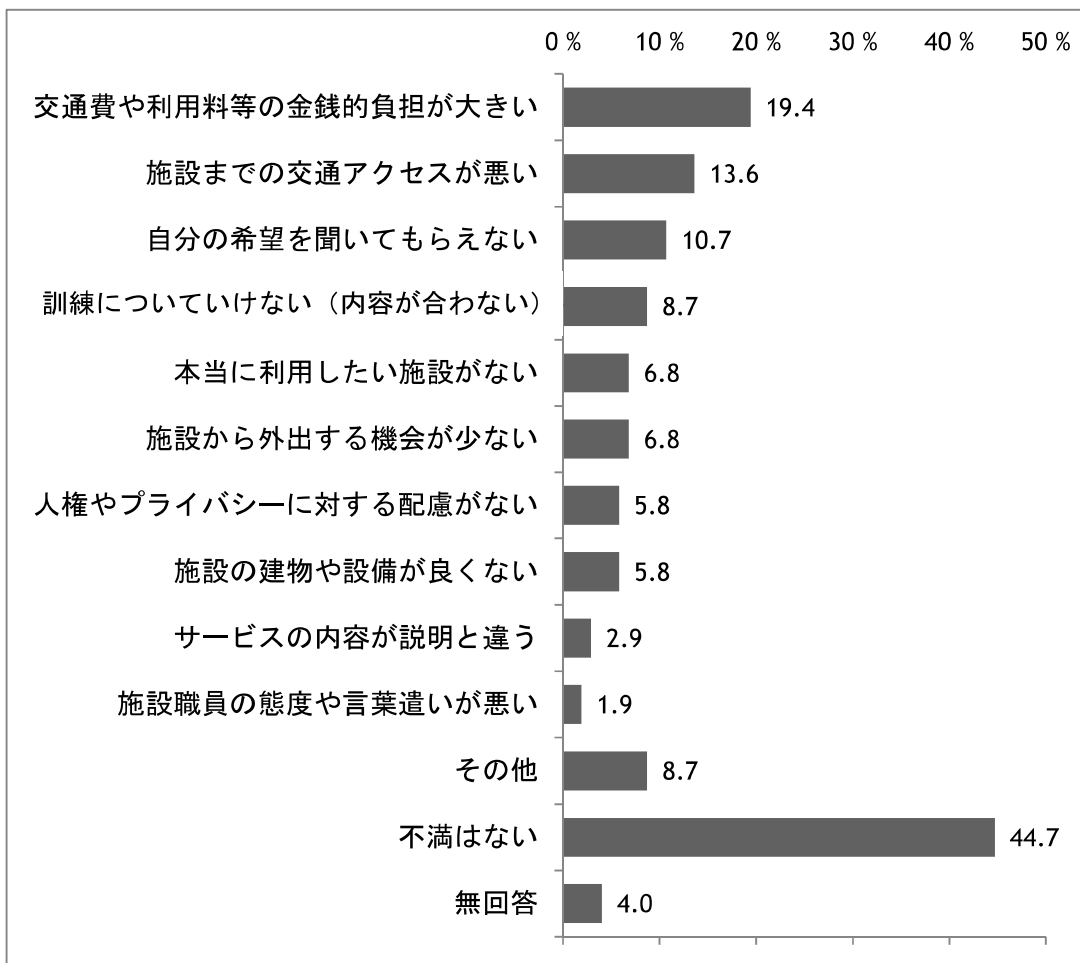
(n=103)



8) 福祉施設への不満

通所している福祉施設に対しては「不満はない」という回答が最も多かったが（44.7%）、「交通費や利用料等の金銭的負担が大きい」という回答が2割弱あった。

〈複数回答〉(n=103)



「その他」の具体例 ■訓練が少ない ■施設を変更し難い
 ■体調に配慮してもらえない ■担当職員が決まってない

4. 入院・入所状況について（入院・入所する精神障害者のみ）

精神障害者の回答者のうち3%が入院中であり、5%が福祉施設に入所中となっている。現在入院中の人々の通算の入院期間は1年以上が約半数であり、4割以上は6回以上入院を経験している。入院中の回答者のうち68.2%が退院を希望しており、退院後は7割程度の人が親や配偶者との同居を希望している。

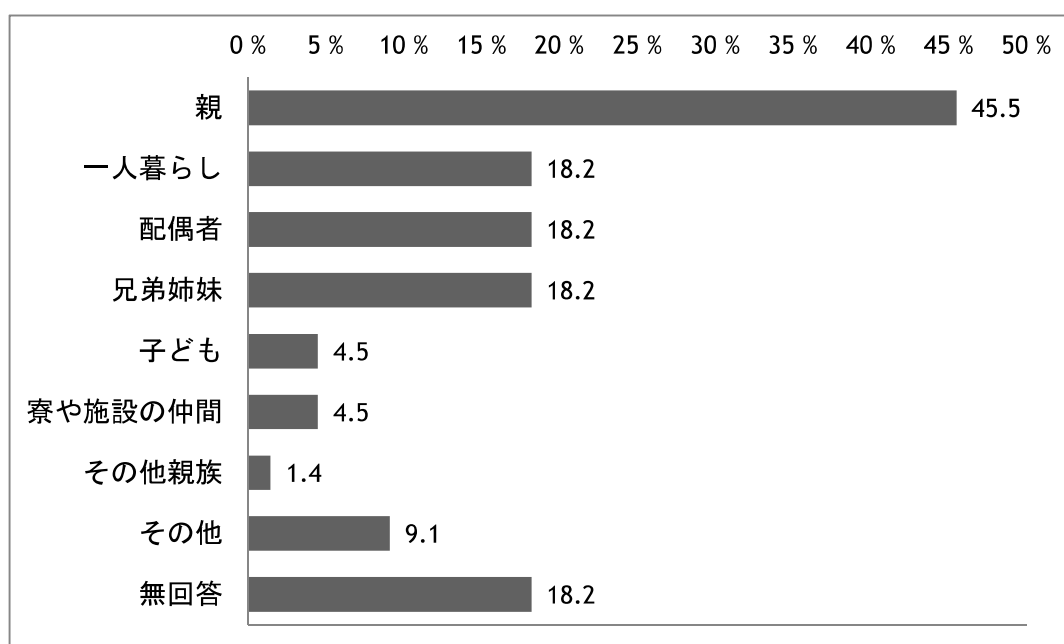
福祉施設入所中の場合、グループホームの利用が最も多く、続いて障害者支援施設の利用が多くなっている。

精神科に入院している人

1) 入院前の同居者

入院前は親や配偶者等の家族と同居していた回答者が多い傾向にある。

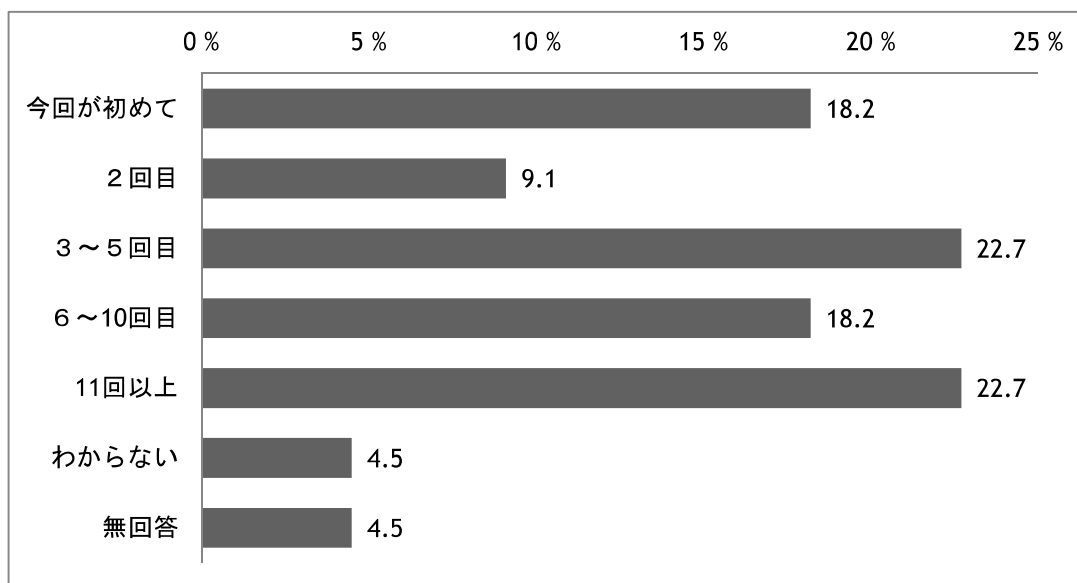
〈複数回答〉(n=22)



2) 入院回数

4割以上が6回以上入院を経験している。

(n=22)



3) 通算入院期間

通算の入院期間が1年以上にのぼる人も約半数含まれている。

(n=22)

